別添２

令 和 ８ 年 第 １ １ 回
箕面市教育委員会定例会
議案書

報告第９７号　　令和８年度箕面子どもステップアップ調査結果報告の件

令和8年度（2026年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告（その1）

○　全国学力・学習状況調査

○　すくすくウォッチ

○　箕面体力・運動能力・運動習慣等調査

令和8年（2026年）11月

箕 面 市 教 育 委 員 会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

全国学力・学習状況調査の結果分析について

全国学力・学習状況調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
令和8年度　全国学力・学習状況調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・ 11
令和8年度　各教科別分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
令和8年度　全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校国語・・・ 14
令和8年度　全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校算数・・・ 16
令和8年度　全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校国語・・・ 18
令和8年度　全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校数学・・・ 20
令和8年度　全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校英語・・・ 22
令和8年度　箕面市児童生徒「学習状況調査」結果から・・・・・・ 24

すくすくウォッチ　わくわく問題の結果分析について

令和8年度　すくすくウォッチわくわく問題(教科横断型問題)・・・・・ 29

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

令和8年度　箕面体力・運動能力、運動習慣等調査・・・・・・・・・・ 31
各種目結果の学年別経年比較
　　1年生（小1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
　　2年生（小2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
　　3年生（小3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
　　4年生（小4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
　　5年生（小5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
　　6年生（小6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　　7年生（中1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
　　8年生（中2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
　　9年生（中3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
令和8年度　運動習慣等調査の結果から・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
令和8年度　箕面体力・運動能力、運動習慣等調査　まとめ・・・・43

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

〇全国学力・学習状況調査　　〇全国体力・運動能力、運動習慣等調査

府には、

〇すくすくウォッチ

があります。

箕面市では、国・府の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

〇箕面学力調査　　〇英検 IBA
〇箕面体力・運動能力、運動習慣等調査　　〇学習状況・生活状況調査
〇学校生活アンケート

箕面市では、これら国・府の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面子どもステップアップ調査
（箕面学力・体力・生活状況総合調査）概要

		実施時期	1年生（小1）	2年生（小2）	3年生（小3）	4年生（小4）	5年生（小5）	6年生（小6）	7年生（中1）	8年生（中2）	9年生（中3）
学力調査	全国学力学習状況調査	4月						● 国・算			● 国・数・英
	すくすくウォッチ	4月					● 教科横断的な問題	● 教科横断的な問題			
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査（★は全国体力調査に参加）（◆は大阪府「めっちゃMORIMORIスポーツテスト」に参加）		4月～6月	● 3種目	● 3種目	◆● 8種目	◆● 8種目	★● 8種目	● 8種目	● 8種目	★● 8種目	● 8種目
生活状況調査	学習状況生活状況調査	6月・12月	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	学校生活アンケート	10月・2月									

2 箕面子どもステップアップ調査内容

箕面市では、9年間の小中一貫教育を通して、子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため、平成24年度（2012 年度）から全ての市立小中学校の全学年の児童生徒を対象に、市独自の「箕面子どもステップアップ調査（箕面学力・体力・生活状況総合調査）」を実施しています。

この調査により、毎年、子どもたち一人一人の各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

○ 調 査 の 目 的

(1)箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2)学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人一人への教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。

(3)箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取り組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 学 力 調 査

▼学年ごとに子どもたち一人一人の各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人一人に応じた着実な学力の向上を図ります。

▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

(1)全国学力・学習状況調査
【6年生(小6)】 国語、算数
【9年生(中3)】 国語、数学、英語

(2)すくすくウォッチ（特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題で、文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題）
【5～6年生(小5～6)】

(3)箕面学力調査
【1～2年生(小1～小2)】国語・算数
【3～4年生(小3～小4)】国語・社会・算数・理科
【5～6年生(小5～小6)】国語・社会・算数・理科・英語
【7～8年生(中1～中2)】国語・社会・数学・理科・英語
なお、国語と英語は、リスニング（聞き取り）調査も実施
※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(4)英検 IBA
【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

○ 体　力　調　査

▼子どもたち一人一人の発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内　容

(1)箕面体力・運動能力調査・・・・・・「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施
　◎調査種目
【1～2年生(小1～小2)】立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ
【3～9年生(小3～中3)】立ち幅とび・50m走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)
　反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈
(2)運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査・・・・・・全学年で実施

○生 活 状 況 調 査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情※などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内　容

- 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

3　報告の概要

この報告は、箕面子どもステップアップ調査のうち、4月に実施した全国学力・学習状況調査とすくすくウォッチ、及び4月から6月にかけて実施した箕面体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに結果概要を作成し、保護者に報告します。

4　箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人一人の学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

令和8年度（2026年度）の目標値と結果

<table>
<tr><td rowspan="6">1</td><td>全国学力・学習状況調査の結果</td><td>校種</td><td>学年</td><td>教科</td><td>目標値</td><td>箕面市</td><td>結果※</td></tr>
<tr><td rowspan="3">＜指標＞
全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率
＜目標値＞
全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。
※IRTスコアとは、問題の難易度や解答状況などを考慮して、学力を数値化したものです。</td><td rowspan="3">小学校</td><td rowspan="3">6年</td><td>国語</td><td>65</td><td>63</td><td>●</td></tr>
<tr><td>算数</td><td>63</td><td>60</td><td>●</td></tr>
<tr><td>理科</td><td></td><td></td><td>-</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中学校</td><td rowspan="3">3年
（9年生）</td><td>国語</td><td>68</td><td>65</td><td>●</td></tr>
<tr><td>数学</td><td>63</td><td>60</td><td>●</td></tr>
<tr><td>※英語
（IRTスコア）</td><td>515～</td><td>532</td><td>◎</td></tr>
<tr><td rowspan="8">2</td><td>学習状況・生活状況調査</td><td>校種</td><td colspan="2">学年</td><td>目標値</td><td>箕面市</td><td>結果※</td></tr>
<tr><td rowspan="7">＜指標＞
家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果
小学生：1時間以上
中学生：2時間以上</td><td rowspan="4">小学校</td><td colspan="2">3年</td><td rowspan="7">小学校55%
中学校55%を上回る</td><td rowspan="7" colspan="2">2学期に実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">4年</td></tr>
<tr><td colspan="2">5年</td></tr>
<tr><td colspan="2">6年</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中学校</td><td colspan="2">1年（7年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">2年（8年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">3年（9年）</td></tr>
<tr><td rowspan="10">3</td><td>学習状況・生活状況調査</td><td>校種</td><td colspan="2">学年</td><td>目標値</td><td>箕面市</td><td>結果※</td></tr>
<tr><td rowspan="9">＜指標＞
いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果
（肯定的回答率）</td><td rowspan="7">小学校</td><td colspan="2">1年</td><td rowspan="7"></td><td rowspan="9" colspan="2">2学期に実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">2年</td></tr>
<tr><td colspan="2">3年</td></tr>
<tr><td colspan="2">4年</td></tr>
<tr><td colspan="2">5年</td></tr>
<tr><td colspan="2">6年</td></tr>
<tr><td colspan="2">小学校平均</td><td>90.0%</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中学校</td><td colspan="2">1年（7年）</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">2年（8年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">3年（9年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">中学校平均</td><td>98.0%</td></tr>
<tr><td rowspan="10">4</td><td>学習状況・生活状況調査</td><td>校種</td><td colspan="2">学年</td><td>目標値</td><td>箕面市</td><td>結果※</td></tr>
<tr><td rowspan="9">＜指標＞
自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果
（肯定的回答率）</td><td rowspan="6">小学校</td><td colspan="2">1年</td><td rowspan="9">①成功体験と自信
（小）80.0以上
（中）80.0以上
②充実感と向上心
（小）85.0以上
（中）85.0以上
③感動体験
（小）75.0以上
（中）75.0以上
④他者からの評価
（小）70.0以上
（中）65.0以上</td><td rowspan="9" colspan="2">2学期に実施</td></tr>
<tr><td colspan="2">2年</td></tr>
<tr><td colspan="2">3年</td></tr>
<tr><td colspan="2">4年</td></tr>
<tr><td colspan="2">5年</td></tr>
<tr><td colspan="2">6年</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中学校</td><td colspan="2">1年（7年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">2年（8年）</td></tr>
<tr><td colspan="2">3年（9年）</td></tr>
</table>

5	英検IBA	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 英検3級程度の力	中学校	3年(9年)	80.0%	2学期に実施	

6	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数	達成率	結果※
	＜指標＞ 全8種目それぞれの男女別学年平均値	小学校	1年	0 ／6	0.0%	●
			2年	0 ／6	0.0%	●
	＜目標値＞ 全学年・全種目で全国平均値を上回る。		3年	5 ／16	31.3%	●
			4年	3 ／16	18.8%	●
	■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)		5年	3 ／16	18.8%	●
			6年	2 ／16	12.5%	●
		中学校	1年(7年)	4 ／16	25.0%	●
	※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍になっています。		2年(8年)	4 ／16	25.0%	●
			3年(9年)	2 ／16	12.5%	●

7	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	①学級の規範意識 (小)80.0以上 (中)80.0以上 ②学級の絆 (小)85.0以上 (中)85.0以上	2学期に実施	
			2年			
			3年			
			4年			
			5年			
			6年			
		中学校	1年(7年)			
			2年(8年)			
			3年(9年)			

8	学校生活適応状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校	1年	小学校16.5 中学校39.0より 下げる	年度末に集計	
			2年			
			3年			
			4年			
			5年			
			6年			
		中学校	1年(7年)			
			2年(8年)			
			3年(9年)			

9	すくすくウォッチの結果	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 大阪府すくすくウオッチ(教科横断的な問題)の平均正答率 ＜目標値＞ 令和7年度の平均正答率を上回る。	小学校	5.6年	74.7%	68.0%	●

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

※ 全国学力・学習状況調査結果の詳細については、P11・P12に掲載しています。

■ 全国学力・学習状況調査の結果

【結果】

学力調査は、小学校6年生を対象に国語・算数の2教科、中学校3年生（9年生）を対象に国語・数学・英語の3教科で行われました。小学校の国語・算数、中学校の国語・数学では、いずれも全国平均正答率及び大阪府平均正答率を上回りました。中学校英語についても、※平均 IRT スコアは全国平均及び大阪府平均を上回りました。学習状況調査では、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対し、「2時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回りました。一方、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国をやや上回りましたが、中学校では全国を下回り、昨年度と比べても減少しました。

※IRT スコアとは、問題の難易度や解答状況などを考慮して、学力を数値化したものです。

【取組の経過】

教科ごとに調査結果を分析し、明らかになった成果と課題を踏まえて、各学校で児童生徒の実態に応じた授業改善に取り組んできました。また、学力調査の結果だけでなく、児童生徒質問調査をとおして、学習意欲や生活習慣、学校生活の状況についても把握・分析してきました。学力向上に向けた授業改善を基本としながら、安心して学べる環境づくりなど、子どもたちの学びを支える様々な視点も大切にしています。

【分析】

（1） 今年度の全国トップの都道府県と箕面市の全国学力調査の結果を比較すると、小学校国語の平均正答率は2ポイント、小学校算数は3ポイント、中学校国語は3ポイント、中学校数学は3ポイント、それぞれ全国トップを下回りました。一方、4教科とも全国・大阪府の平均を上回り、中学校英語の IRT スコアも532で、全国平均を33ポイント上回りました。個別の問題では、小学校国語で文章中の考えと理由のつながりを理解する問題が全国平均を0．8ポイント、中学校国語で助言をもとに文章のよい点や改善点を考える問題が1．2ポイント下回りました。小学校算数では表から条件に合う人数を読み取ること、中学校数学では関数を活用して解決方法を説明することに課題が見られました。中学校英語では「聞くこと」が全国と同じ平均1．2点で、聞き取った内容を理解する力の向上が課題と考えられます。

（2） 調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その解決に向けて指導内容や指導方法を教職員間で共有し、授業改善を進めます。例えば、国語では文章中の考えと理由のつながりを読み取る活動や、友だちの助言をもとに表現を見直す活動を充実させます。算数・数学では、表やグラフから情報を読み取り、解決方法を根拠をもって説明する力を育てます。英語では聞き取った内容を理解する力の向上を図ります。また、学習習慣や生活状況も踏まえ、家庭学習の定着に向けて一人一人に応じた丁寧な指導に取り組みます。

■ 箕面体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

1年生から9年生まで男女別で調査した種目の総数は、124種目です。このうち、全国平均を上回った種目数は23種目で、全体の19％でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取り組みの経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上に向けた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配付や体力向上ボランティアなどの取組を行ってきました。また、令和2年度から、小学校・一貫校では、全校統一のカリキュラムのもと、副読本を活用した体育授業を進め、子どもの「わかる・できる」を大切に、体力向上とともに運動への意欲向上に努めています。令和3年度から、小学校・一貫校では、民間企業と連携したり、実践に優れた現役教員を講師として招いたりしながら「指導研修会」を実施し、器械運動領域で効果的な授業方法についての学びを深めています。令和4年度から、体力向上推進部会を開催し、子どもたちの体力向上に向けた効果的な授業の在り方について研究を深め、授業において実践しています。

【分析】

（1） 学年や男女別によっては、全国平均値を上回る種目も見られた一方で、全体としては、全国平均値を下回る種目が多い結果となりました。特に「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」については、対象学年の全てで全国平均値を下回り、筋力や跳躍力、投力に課題が見られました。しかし、経年比較では、全国平均を上回る種目が増加しており、子どもたちの体力は向上傾向にあることがうかがえます。今後も、握る・跳ぶ・投げる運動を継続的に取り入れるとともに、動きのポイントやコツを分かりやすく指導し、筋力や跳躍力、投力の向上を図っていきます。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
全国平均を上回った種目数	6	14	18	23
全国平均を上回った割合	5%	11%	15%	19%

（2） 運動習慣等調査と体力合計点との関係を見ると、「運動のコツやポイントをつかむことができる」と回答した子どもたちほど体力合計点が高い傾向が見られました。また、「体育の授業で学んだ運動やスポーツを、大人になってもやってみたい」と回答した小中学生についても、体力合計点が高い傾向が見られました。今後は、子どもたちが運動のコツやポイントをつかむことができるよう、工夫した授業づくりを進めるとともに、運動の楽しさや達成感を味わえる学習の充実を図っていきます。

■すくすくウォッチの結果

【結果】

5年生・6年生ともに、大阪府の平均正答率を上回る結果となりました。

【分析】

（1） 多くの領域、観点、問題形式で大阪府の平均正答率を上回りました。特に、「図や表、グラフ等の内容を関連付けて正しくとらえる観点」は、大阪府を6．4ポイント上回りました。また、「複数の情報を関連付けて新たな課題を考える観点」も5．5ポイント上回りました。一方、「興味・関心のある事がらを工夫して相手に伝える観点」は、1．4ポイント下回りました。さらに、「複数の意見を踏まえて画面間のつながりを図に表す問題」では、正答率が28．8%にとどまり、条件を正確に読み取り、図に表現することに課題が見られました。

（2） 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育むため、日々の学習活動で、自ら「なぜ」「どうして」と考えることを大切にし、子どもたちがそれぞれの強みを生かしながら、友だちと協力して課題を解決する力の育成を目指します。

全 国 学 力 ・学 習 状 況 調 査 に つ い て

1 実施日

令和8年(2026年)4月23日(木曜日)
中学校英語は CBT のため24 日から30日に分けて実施

2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び中学校3年生(9年生)全生徒

3 調査内容

学力状況調査
学力状況調査(小学校6年生:国語、算数)
学力状況調査(中学校3年生(9年生):国語、数学、英語)

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

4 参加人数

小学校6年生　　:14校　1,345人
中学校3年生(9年生):　8校　1,281人　　計2,626人

5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取り組みの成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取り組みにつなげる。

6 公表の方法

(1)本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
(2)個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表を行わない。
(3)各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

7 公表の手段

(1)教育委員会
教育委員会ホームページ
(2)各学校
①各校の実情に応じて「学校(学年)だより」などで説明
②学校協議会、懇談会などで説明

令和8年度　全国学力・学習状況調査結果

（国立教育政策研究所 HP から）

小学校 6 年生

＜平均正答率の状況＞

	国　語	算　数
箕面市	63（7）※1	60（2）
大阪府	59	56
全　国	60.9	56.4
都道府県 全国トップ	65 秋田・石川・東京	63 東京

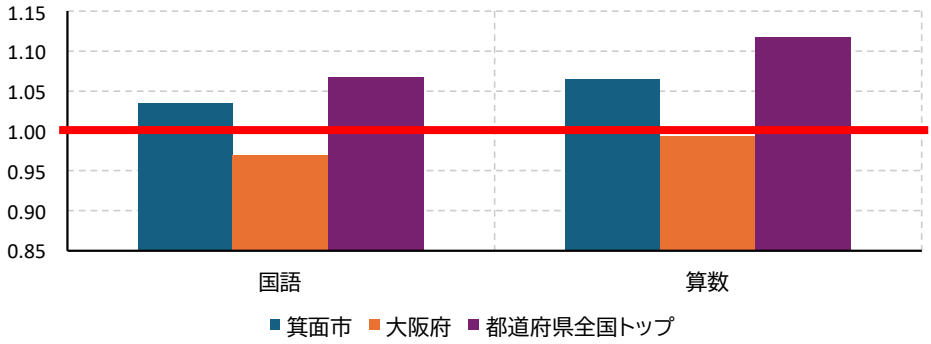
＜全国平均を1としたときの市別・教科別データ＞

	国　語	算　数
箕面市	1.03	1.06
大阪府	0.97	0.99
都道府県 全国トップ	1.07 秋田・石川・東京	1.12 東京
全国トップに対する 箕面市の割合	0.97	0.95

（ ）は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した 48 件中の順位

※1　同率の都道府県が複数あるため順位は7位ですが、3 番目に高い正答率となります

小学校6年生　全国平均を1とした値



中学校 3 年生(9 年生)

＜平均正答率の状況＞

	国　語	数　学	英語 (IRT スコア)
箕面市	65(6) ※2	60(3)	532 ※3
大阪府	61	55	498
全　国	63.9	57.0	499
都道府県 全国トップ	68 石川・東京	63 石川	515～ 東京・神奈川

＜全国平均を1としたときの市別・教科別データ＞

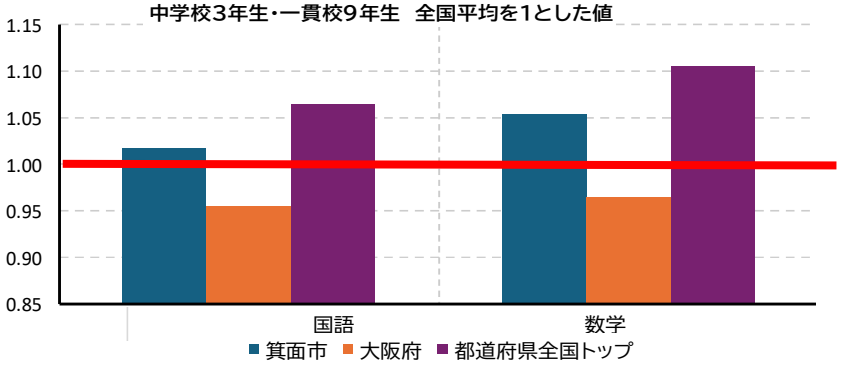
	国　語	数　学	英語 (IRT スコア)
箕面市	1.02	1.05	1.07
大阪府	0.95	0.96	1.00
都道府県 全国トップ	1.06 石川・東京	1.11 石川	
全国トップに対する 箕面市の割合	0.96	0.95	

（ ）は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した 48 件中の順位

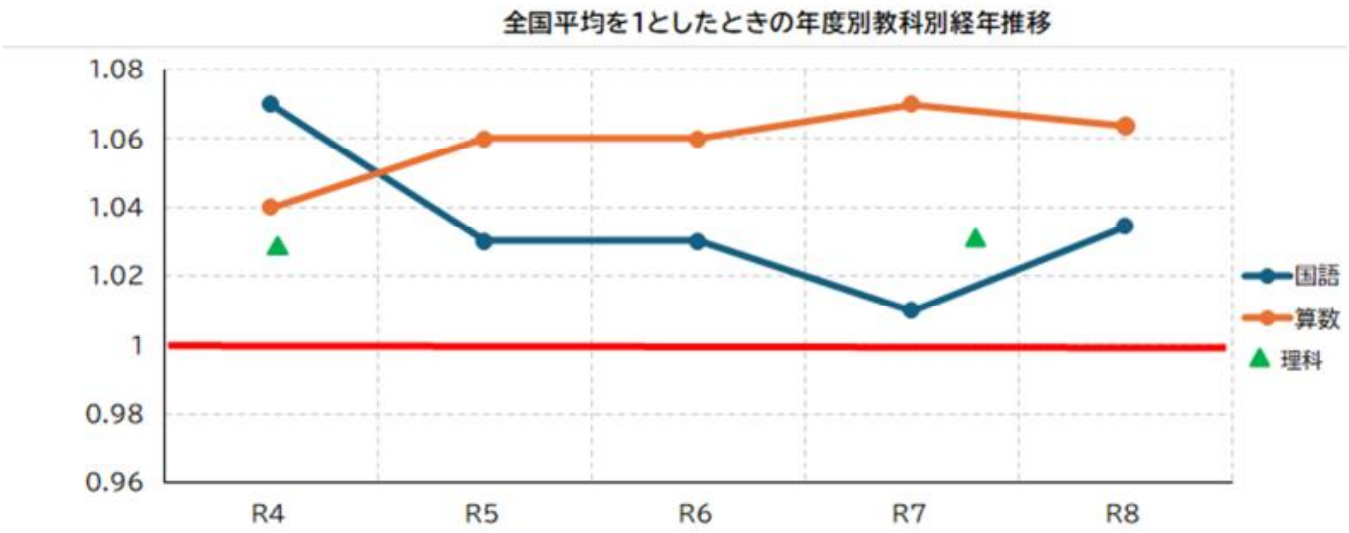
※2　同率の都道府県が複数あるため順位は 6 位ですが、4 番目に高い正答率となります

※3　中学校英語の IRT スコアは、国の都道府県別公表結果において「515 以上」が最高区分となっています。箕面市もこの区分に該当することから、全国トップレベルの水準にあるといえます。

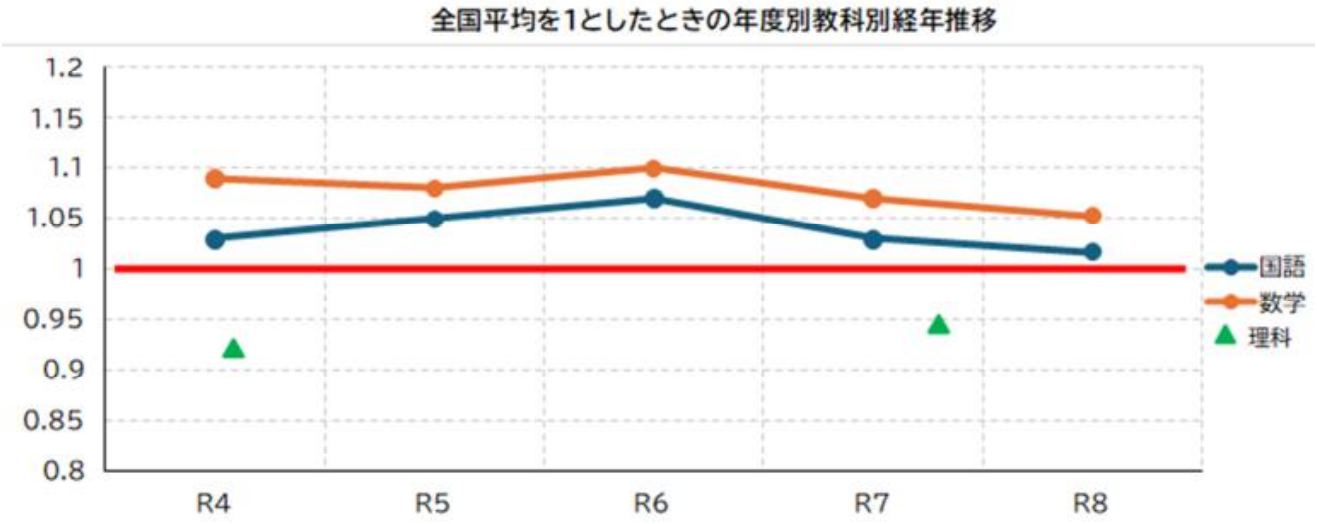
中学校3年生・一貫校9年生　全国平均を1とした値



小学校6年生



中学校3年生（9年生）



※中学校英語について、R1・R5 は平均正答率、R8 は IRT スコアであり、算出方法と尺度が異なるため、経年グラフは掲載しておりません。

令和８年度　すくすくウォッチ（わくわく問題）

〈平均正答率の状況〉

	５年	６年
箕面市	64.3	71.6
大阪府	58.1	68.5

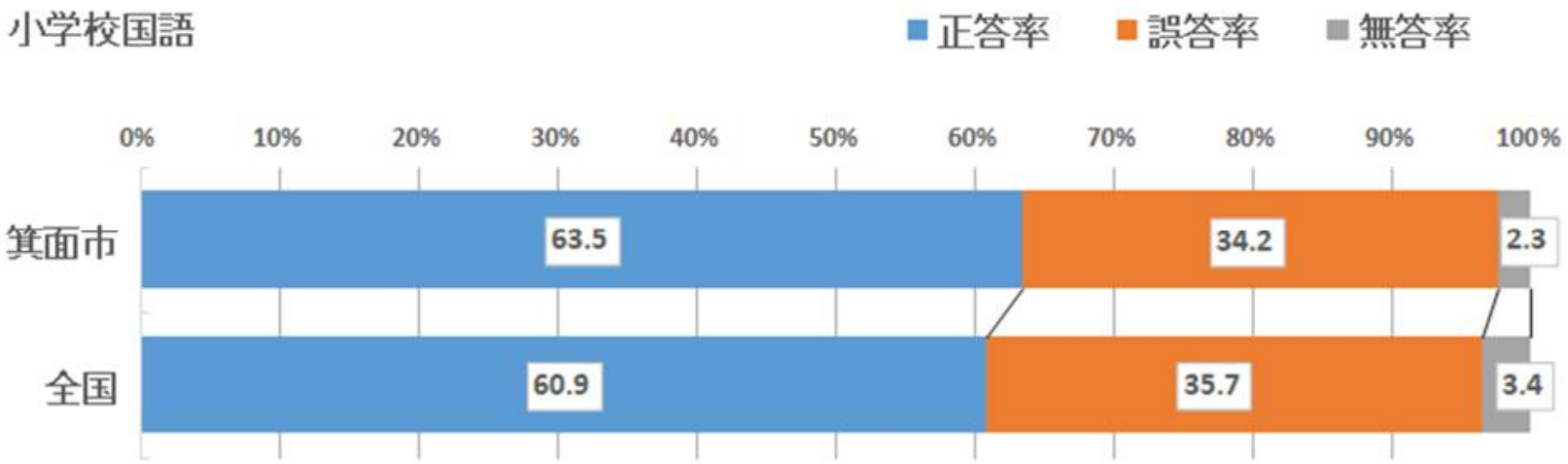
〈大阪府を1としたときの箕面市のデータ〉

	５年	６年
箕面市	1.11	1.05

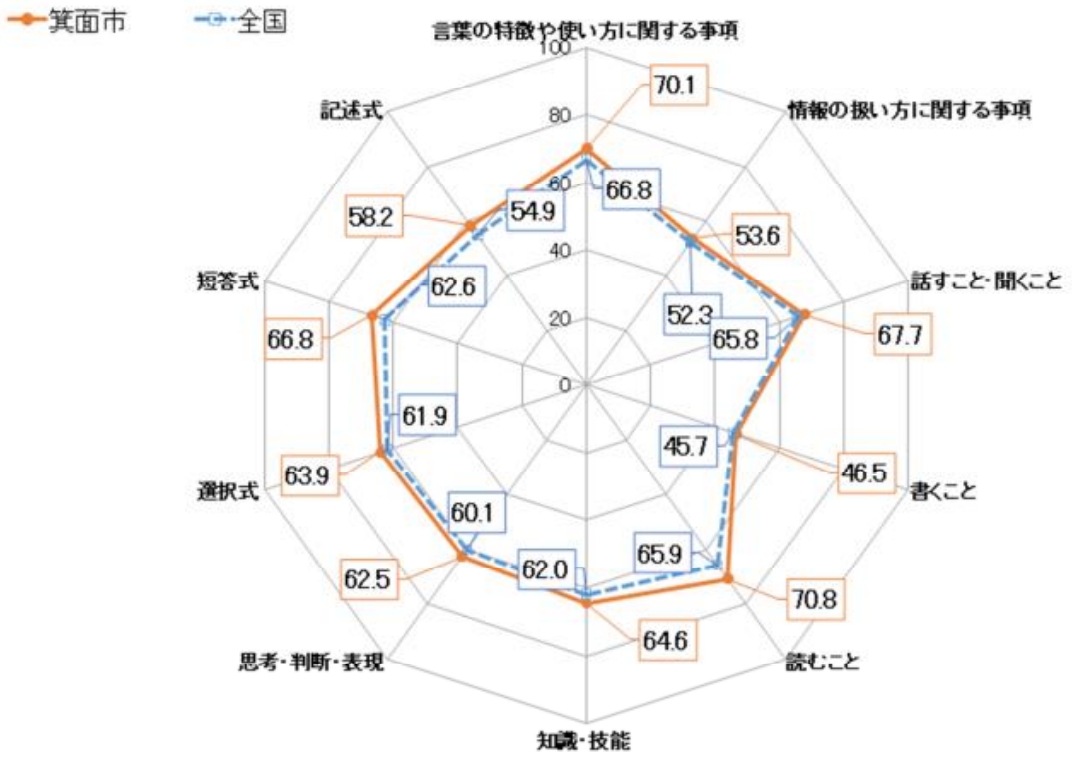
令和8年度　各教科別分析結果

箕面市　令和８年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞ ６年生 国語

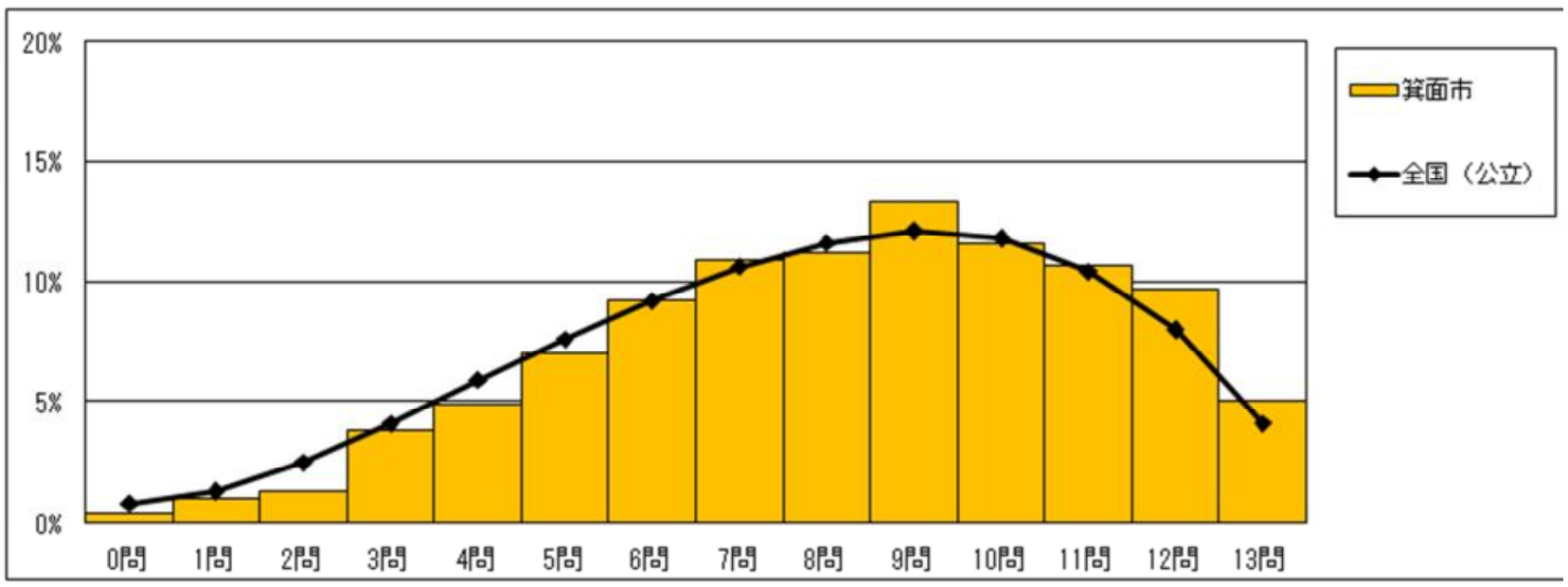
正答率



領域・観点 問題形式別正答率



正答数分布



国語から見えてくること

すべての領域、観点、問題形式において正答率が全国と比べて上回っています。また、無答率に関しても、全ての問題で全国と比べて下回る結果となり、粘り強く問題に取り組もうとする児童が多い傾向にあると言えます。

○「思考力、判断力、表現力等」における「読むこと」に関する問題では、正答率が全国と比べて4．9ポイント上回りました。その中でも、「目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題では、正答率が全国と比べて5．2ポイント上回りました。

△「知識及び技能」における「情報の扱い方に関する事項」に関する問題の中で、「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる」問題では、正答率が全国と比べて0．8ポイント下回りました。

2 二.文章の流れや内容を読み取り、前の文に続く適切な文を選択する問題

この問題は、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、報告し合う授業の中で、花山さんが「暑い夏を快適に過ごすための衣服の工夫」について調べたことを文章に書く場面が設定されています。

ここでは、花山さんの文章の「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。」に続く文として適切なものを選択することが求められます。

（正答）1

二　花山さんは、**【花山さんの文章の一部】**の――部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。――部①に続く文として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
2　例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
3　例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
4　例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

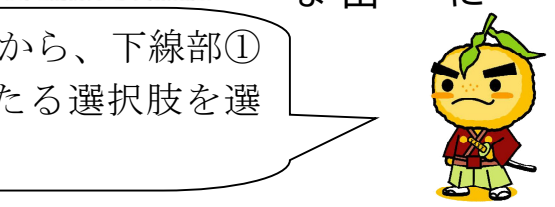
「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

〈図〉



では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

問題の詳細は、右の QR コードから確認することができます。



筆者の考えと理由や事例との関係を捉え、文章のつながりを考えよう

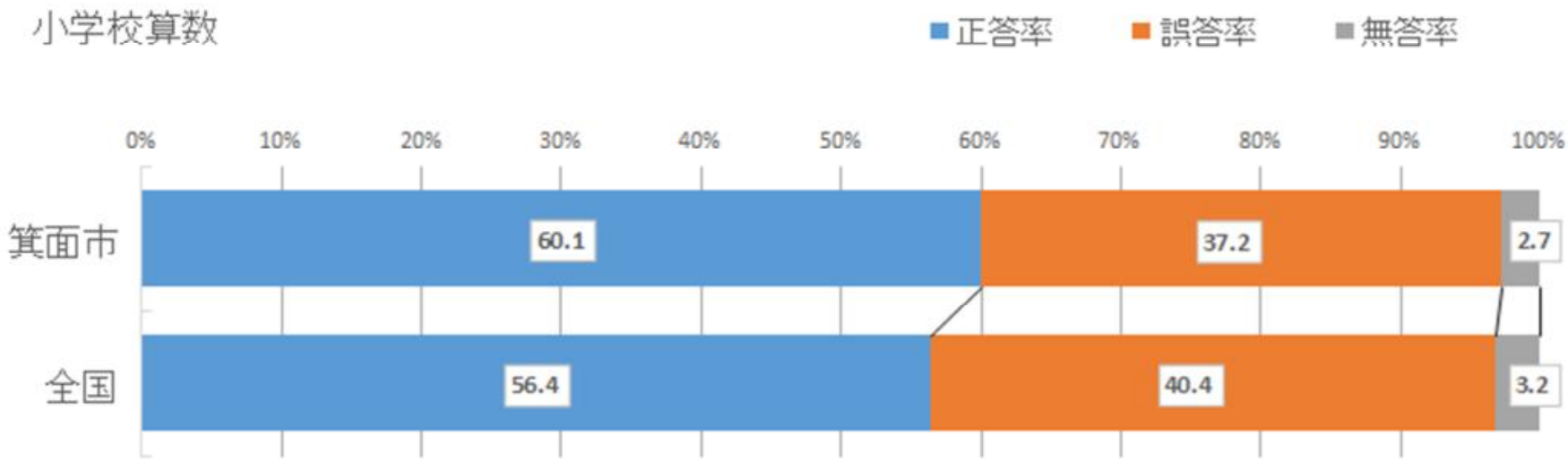
今回の問題では、「例えば、」という表現に続く内容が考えを支える事例であると捉えられなかった児童や、文脈とは関係なく【花山さんの文章の一部】の〈図〉や自分の経験をもとに選択した児童がいたと考えられます。

今回のように、文章の流れや内容を読み取り、前の文に続く適切な文を選択する問題では、まず、筆者がどのような考えを伝えようとしているのかを捉えることが大切です。その上で、その考えを支える理由や事例が文章の中でどのように示されているのかを読み取り、前の文とのつながりや文章全体の内容を踏まえて、適切な文を選択することが重要です。

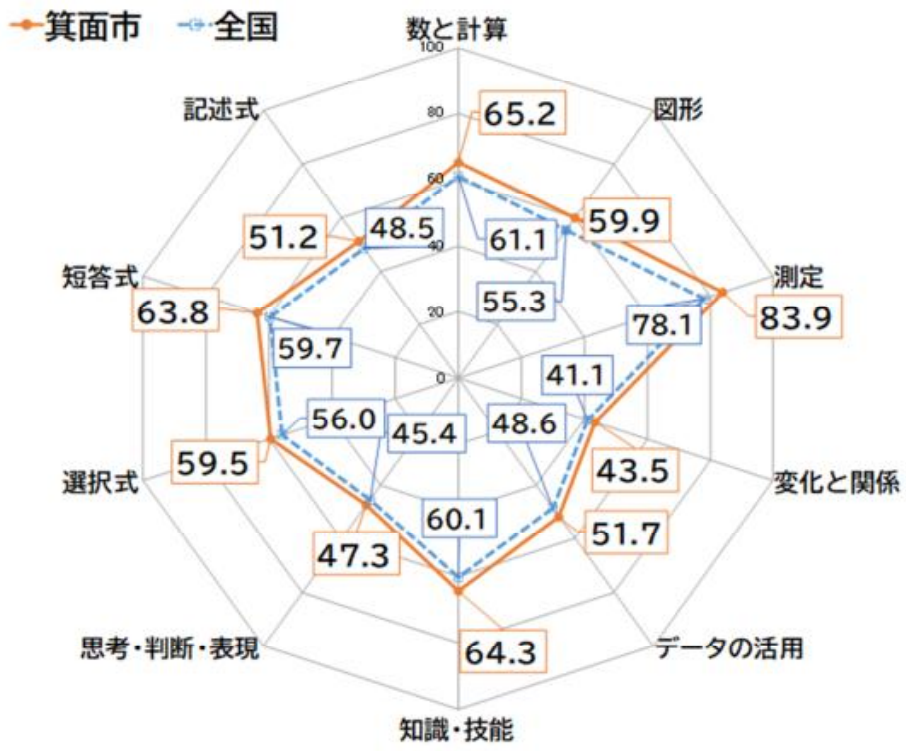
そのために、授業では、文章中の表現や前後の文のつながりに着目し、筆者の考えと、それを支える理由や事例との関係を捉えられるようにしていきます。また、先生や友だちとの交流を通して、自分の読み方を見直したり、読み手の立場から文章全体のつながりを確かめたりすることを大切にしていきます。こうした学びを通して、文章の流れや内容を捉え、根拠をもって適切な文を選択できるようにしていきます。

箕面市　令和８年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞　６年生 算数

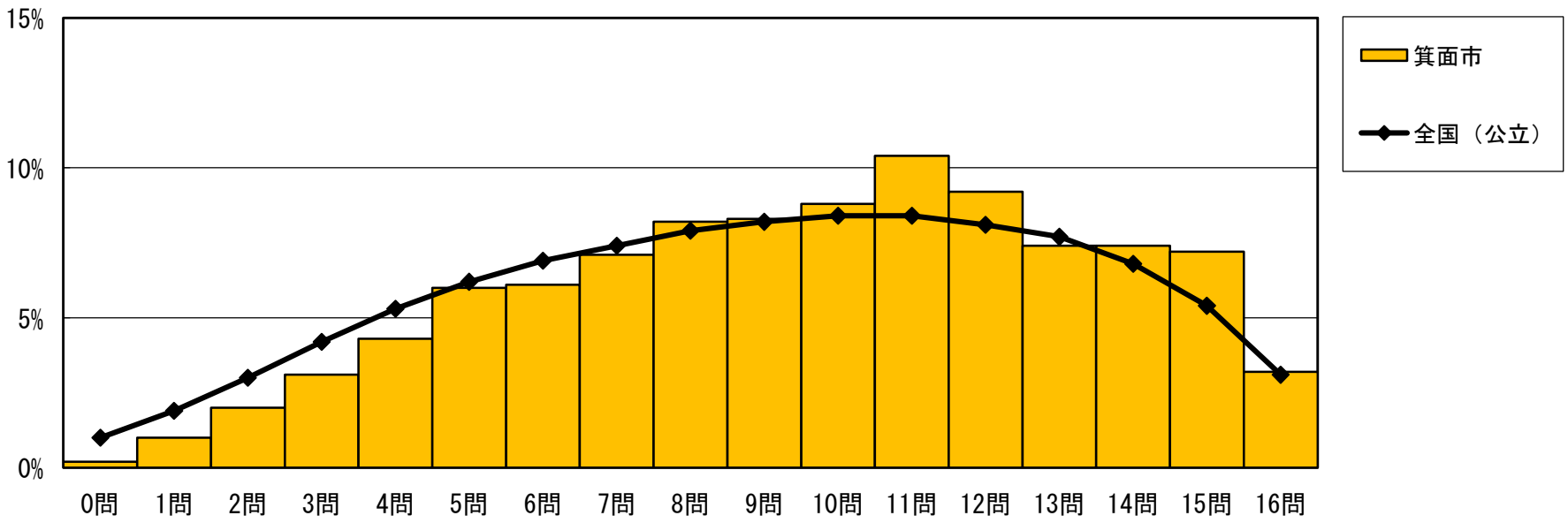
正答率



領域・観点 問題形式別正答率



正答数分布



算数の結果から見えてくること

すべての領域、観点において、正答率は全国と比べて上回っています。また、ほとんどの問題において、無答率が全国と比べて下回っており、粘り強く問題に取り組んでいると言えます。

〇領域別では、「測定」において、正答率が最も高く、全国と比べても大きく上回りました。（全国比＋5．8ポイント）

・示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める問題（正答率83．9%）

△観点別では、「思考・判断・表現」の観点において、正答率は全国と比べて1．9ポイント上回りましたが、正答率が3割程度にとどまる問題がありました。

・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題 （正答率35．6%）

箕面市　令和8年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞　６年生　算数

算数　全16問のうち、最も正答率が低かった問題

(3)　さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数　（人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は　㋐　人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は　㋑　人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

問題の詳細は下のQRコードより確認することができます。



「㋐に入る人数」を見つけることができていても、「㋑に入る人数」の誤答や無回答が多かったよ。



データを二つの観点から分類整理した二次元の表から分析できることが大切でござる。

【正答例】　㋐13　㋑8

【考え方】　㋐に入る人数について、合計欄の意味を理解して「前半にあやとりに参加する人数」を解答する。
㋑に入る人数については、「前半かるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数」を読み取る。

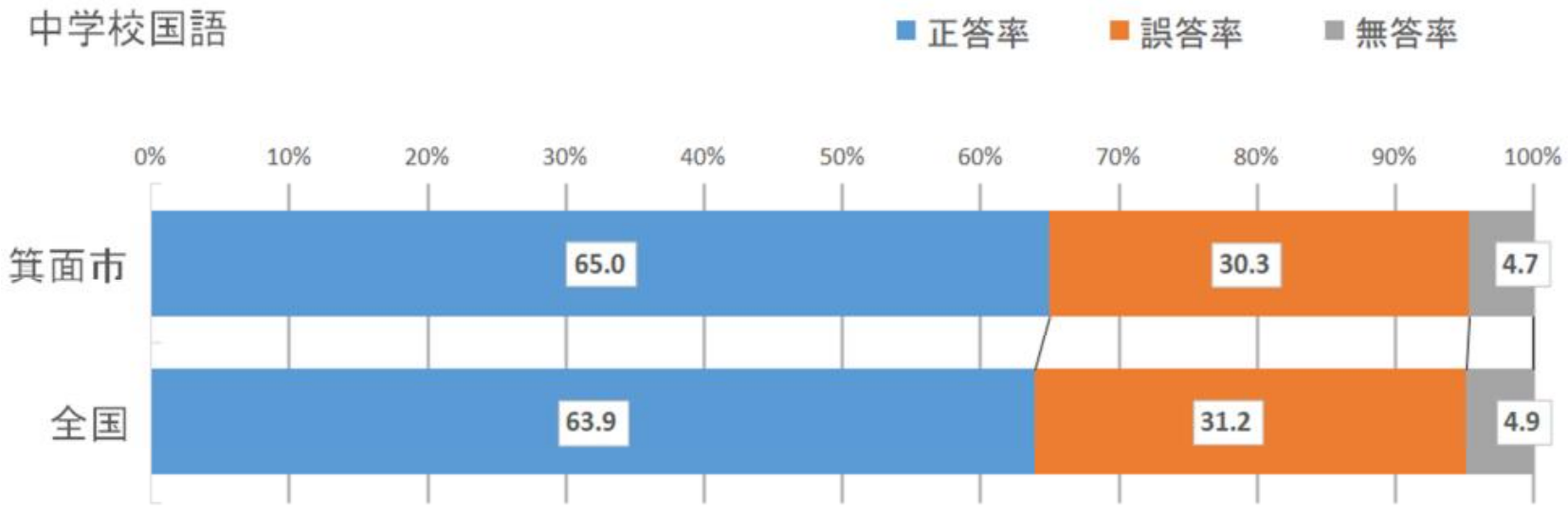
この問題では、二次元表から、条件に合う数を読み取ることができるかを問うています。示された二次元表の二つの観点を捉え、各欄の意味を理解していることが必要です。

数理的な考え方や技能を基礎から身につけ、日常生活や社会で生きる力を育てます！

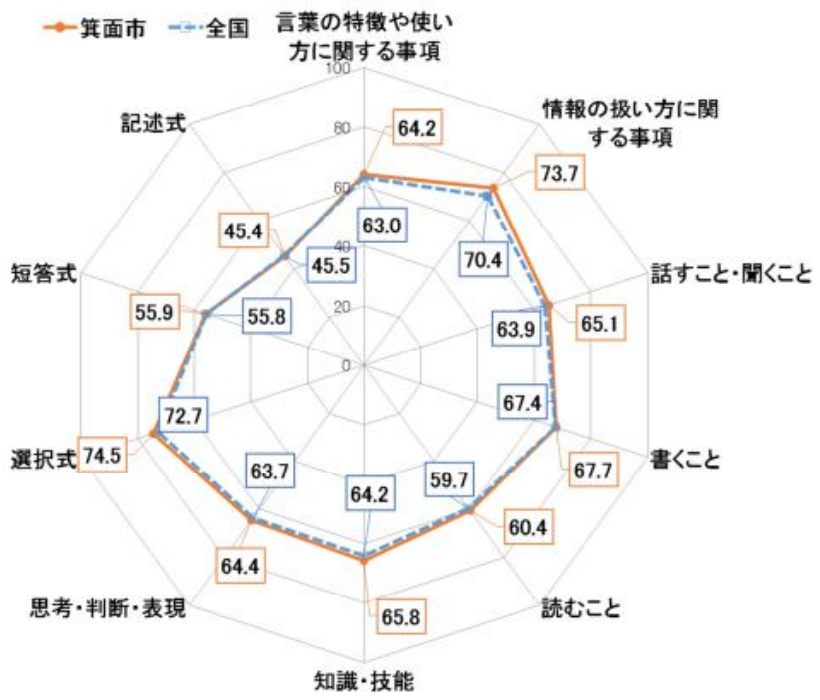
算数では、日常の事象を数理的に捉え、筋道を立てて考え、表現する能力を育てることをめざしています。
具体的には数と計算、図形、測定、データの扱いなど、算数の基本的な知識や技能を確実に習得させ、課題解決に必要な思考力や推論力を養うことを重視しています。また、算数の学びを通して論理的に考え、筋道を立てて表現・説明する力を育成し、問題に対し自ら進んで取り組む態度を育てることもめざしています。さらに、学習内容を生活や他教科との関連で活用できるようにし、算数の面白さや有用性を感じられるような授業づくりをすすめます。

箕面市　令和８年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞ ９年生(中３) 国語

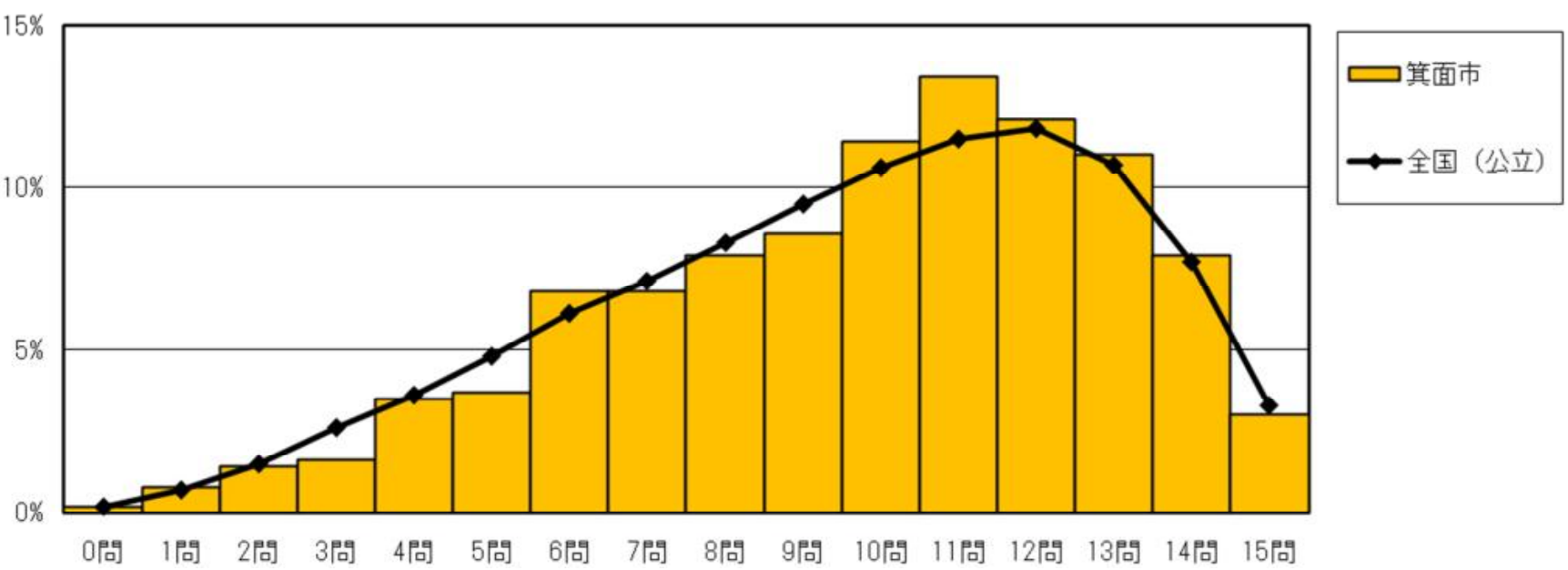
正答率



領域・観点 問題形式別



正答数分布



国語から見えてくること

国語では、多くの問題において正答率が全国と比べて上回りました。

○「知識及び技能」における「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題のうち、「助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる」問題では、正答率は全国と比べて３．４ポイント上回りました。また、「知識及び技能」における「情報の扱い方に関する事項」に関する問題のうち、「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」という問題では、正答率は全国と比べて３．３ポイント上回りました。全国的に無答率の高い問題においても、全国と比べて無答率が低くなっており、粘り強く答えようとしていることがわかります。

△一方で、「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」に関する問題のうち、「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえて、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」問題では、正答率は全国と比べて１．２ポイント下回りました。

3 四. 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる問題

この問題は、例となる交流場面とそれに対するメモを参考にして、「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができる」という力が求められています。

3 石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の**【石井さんが書いている随筆】**を読んで、あとの問いに答えなさい。（1から5は、段落の番号を表します。）

【石井さんが書いている随筆】

1 私には趣味がある。休日になると、私は自転車のハンドルを握りしめ、目的地へ向かう。そして、その日の気持ちに合った景色を見付けては、スケッチブックに写しとる。私の趣味は絵を描くことだ。相棒であるスケッチブックは、今使っているもので四冊目になる。今までに描いた絵を見返すと、その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる。これも絵を描く楽しみの一つだ。

2 三月のある日曜日。その日は、朝から気が重くて、朝食をとっても元気が出なかった。それでも、私は自転車で十五分の大きな公園に向かった。しかし、そんな日に限って、強い向かい風が私に吹き付ける。坂のない平たんな道のりが、とても長く感じられる。何度も引き返そうかと思ったが、なんとか公園にたどり着いた。

3 休日を過ごす人々で公園はにぎわっていた。そんな姿を見ると、絵を描こうという気持ちが自然とわいてきた。私はベンチに腰掛け、鉛筆を走らせる。公園で休日を楽しむ人々の姿をスケッチブックに写しとった。

4 帰りは、進む方向が変わり、私を苦しめたあの向かい風が追い風になった。風が私の背中を押して、自転車はぐんぐん進んでいく。私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。道の途中、横風や向かい風になるときもあるが、気にならなかった。「もう一枚描いてから帰ろうかな。」家の近所の小さな公園で自転車を止めた。

5 同じ風でも、自分の向き合い方が変わると感じ方も変わることを知った。どんなことも自分次第なのだ。この日描いた二枚の絵には、そんな私の気持ちが表れている。

四 石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。**【メモ①】**の書き方を参考にしながら、**【1段落についての交流場面①】**を**【1段落についての交流場面②】**をもとにして**【メモ②】**を書きなさい。

【1段落についての交流場面①】

石井　1段落で、絵を描くことが趣味だということを印象付けるようにと工夫したのですが、どうでしたか。

山田　最初の「私には趣味がある。」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を読みたくなりました。

田中　私もそう思いました。

【1段落についての交流場面②】

石井　スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。

田中　「その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田　スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思いました。

【メモ①】

〈よい点や改善点〉
冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないことによって、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

〈生かしたいこと〉
随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

【メモ②】

〈よい点や改善点〉

〈生かしたいこと〉

問題の詳細は右のQRコードより確認することができます。

（正答例）

〈よい点や改善点〉
スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉
読み手の印象に残るように比喩を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。



〈生かしたいこと〉については、どう考えればいいんだろう。

よい点や改善点をもとにして、自分ならどうするかを考えることが大切でござる。



表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだそう。

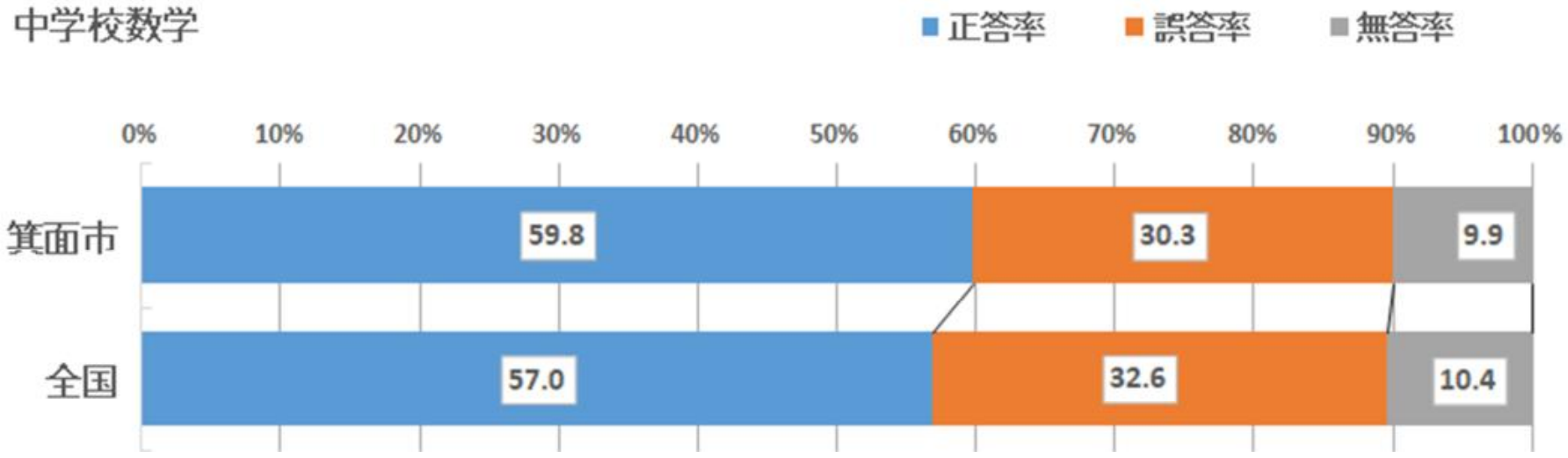
今回の問題では、表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだす必要がありました。表現の工夫やその効果について、助言を踏まえよい点や改善点を見いだす学習は、「自分が書いた文章について捉え直し、表現の効果などを確かめ、分かりやすい文章に整える力」につながります。

この力を伸ばしていくためには、説明文や随筆などを書く活動の中で、「より適切に自分の考えを伝えられる表現は何か」ということを意識して書くとともに、一度書いた文章を他者に読んでもらい、その助言を踏まえ、推敲することが重要です。また、日ごろから様々な作品を読み、多くの表現に触れることも大切です。

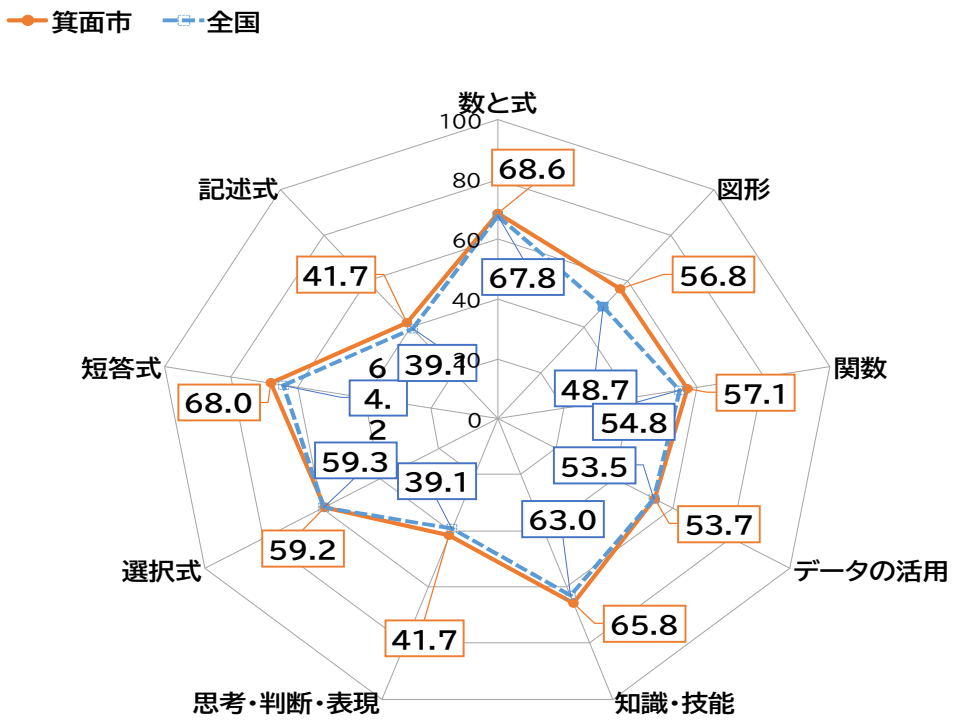
こうした力を育てるため、授業では、自分や他者の文章を読み合い、読み手からの助言をもとに、表現の工夫やその効果について考える学習活動を大切にしていきます。

箕面市　令和8年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞　９年生（中3） 数学

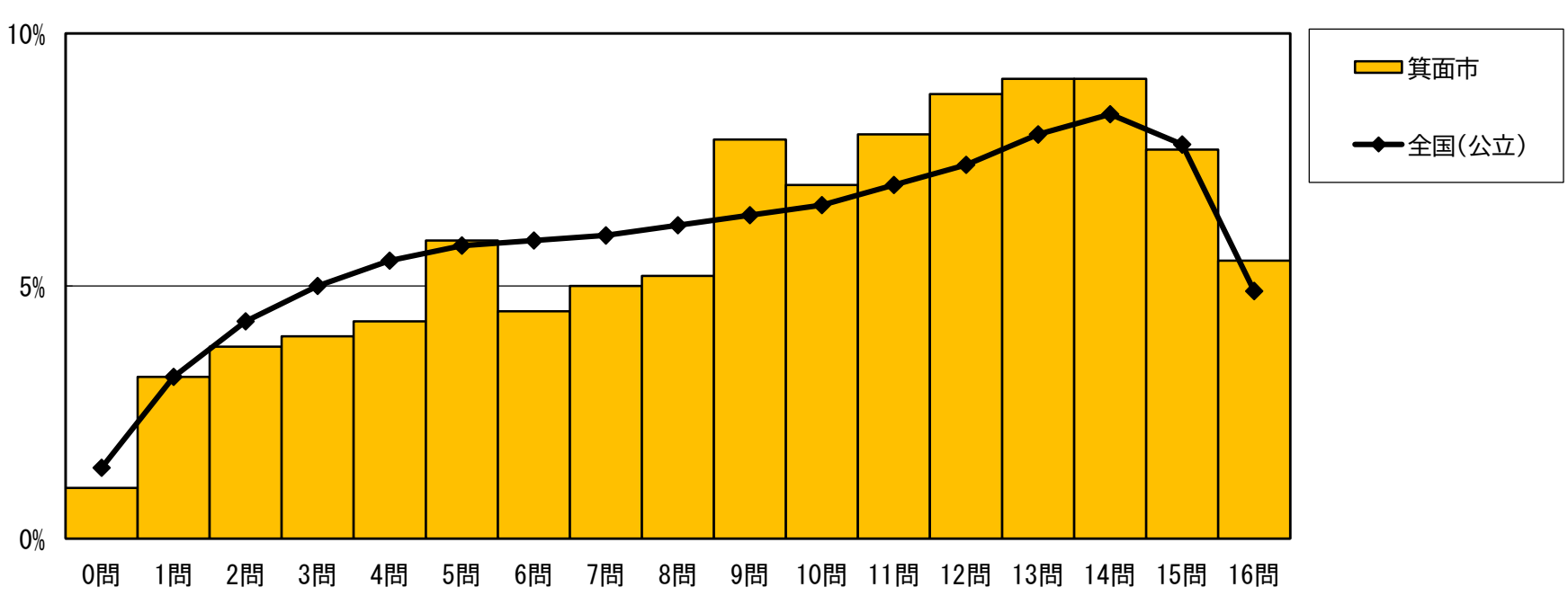
正答率



領域・観点 問題形式別



正答数分布



数学の結果から見えてくること

領域、観点、問題形式において、正答率は全国と比べてほぼ上回っています。

〇領域別では、「図形」の領域の正答率が全国と比べて、最も大きく上回りました。（全国比＋8．1ポイント）
・鋭角∠XOYの2倍を作図から示された図において、AB＝AP、OB＝OPならば∠AOB＝∠AOPであることを、三角形の合同を基にして証明する問題（全国比＋13．2ポイント）

△観点別では、「思考・判断・表現」の観点の正答率が全国と比べて2．6 ポイント以上、上回ったものの、正答率が30%を下回る問題がありました。
・「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する問題（正答率28．3%）

△全16問中8問において無答率が全国と比べて上回っていました。
・手順にしたがってできたAとBについて、A－Bの値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する問題（無答率28．2%　全国比＋1．7ポイント）

箕面市

令和8年度全国学力・学習状況調査＜概要＞　９年生（中3）　数学

数学　全16問のうち、課題が見られた問題

7(2)

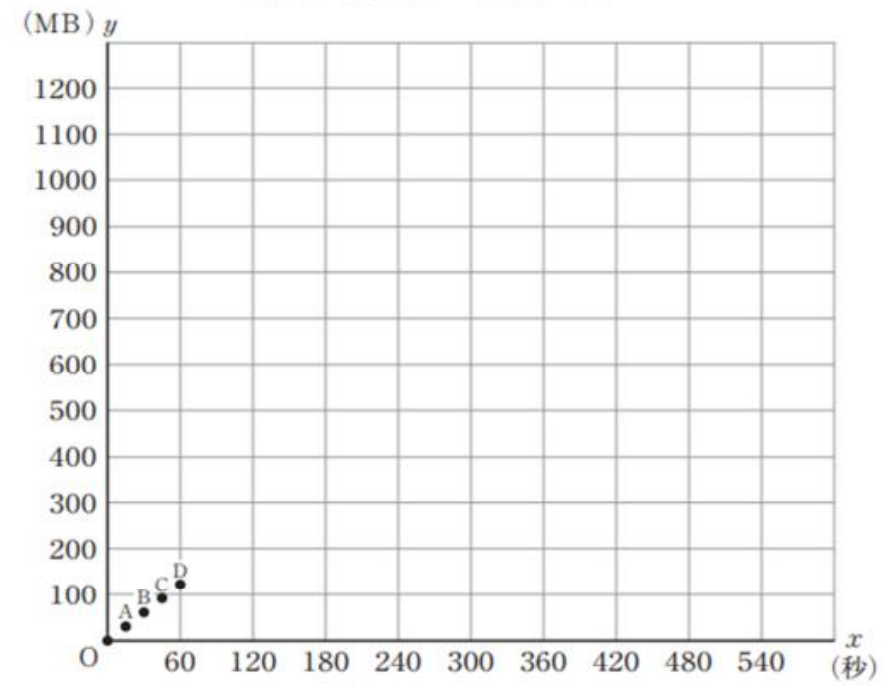
動画の時間とデータ量の関係という日常的な事象における問題について、関数関係に着目し、問題解決の方法を数学的に説明する問題

《問題の概要》
動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録。動画の時間がｘ秒のときのデータ量をyMBとして、表とグラフにまとめた。

問題

（2）光希さんは、1000 MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MB になるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x 座標や y 座標、x の値や y の値など、x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

【正答の条件】
次のことについての記述がある
〇グラフを用いる場合：直線のグラフを利用しｙ座標が1000の時のｘ座標を読むこと。
〇式を用いる場合：式を求めｙ＝1000 を代入しｘの値を求めること。
〇表や数値、割合から求めること。

【正答例】
〇実際にグラフをかき、ｙ座標が1000の時のｘ座標を読む。
〇関係式を求め、ｙ＝1000 を代入しｘの値を求める。
〇表や数値から比例定数を求め、比例定数からｙの値が1000になるときのｘの値を求める。



問題の詳細は左のQRコードより
確認することができます。



今回の問題では、数量の関係を見出し、比例など既習の関数の式、表や数値等の用いるものを明確にして問題解決の方法を説明する力が求められています。今回の結果からは、日常的な事象を既習の関数と関連付けて、捉えることや、グラフ、式から適切なものを選択し、その用い方を数学的に筋道立てて説明することに課題が見られます。

見いだした事柄や事実を、数学的な表現を用いて説明できる力が求められています！

学習指導要領では、「比例・反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。」が求められています。

授業では、身の回りの事象を関数関係で捉え、表・式・グラフを相互に活用して筋道立てて考え、その良さを実感させることを大切にしています。例えば、「身近な問題の設定：生徒の生活経験につながる具体的な課題（量の測定や日常の事象）を選ぶこと。」「多面的な表現の活用：表、式、グラフを往還させ、変化や対応の特徴を見いださせること。」「数学の有用性の実感：『比例・反比例を使うと見通しよく解決できる』という良さに気づかせること。」「表現・説明の充実：自分の考えや考察のプロセスを言葉や数式で他者に分かりやすく説明させること。」について単元の中で、相互に関連付けながら、生徒自身が解決方法を選択し、「どのように用いるのか」を説明する活動を充実させます。

箕面市　令和8年度 全国学力・学習状況調査＜概要＞　９年生（中3） 英語

平均正答数・平均IRTスコア

項　目	箕面市	全国（公立）
聞くこと（満点２問）	1.2 問	1.2 問
読むこと・書くこと（満点５問）	2.9 問	2.5 問
平均正答数（満点7問）	4.1問	3.7問
平均 IRT スコア	532 （IRT スコア）	499 （IRT スコア）

※IRT スコアとは、問題の難易度や解答状況などを考慮して、学力を数値化したものです。

IRTバンド分布

バンド	学力の目安	箕面市	全国（公立）
5	英語を広範な場面で十分に活用できる	10.4%	5.9%
4	英語の基本的な内容を概ね理解・表現できる	31.4%	22.7%
3	英語の基礎的な内容を部分的に理解できる	32.9%	38.4%
2	英語の初歩的な内容を限定的に理解できる	21.8%	28.2%
1	英語の基本的な音やことばを一部理解できる	3.5%	4.7%

※IRT バンドは学力水準を5段階で表したもの。バンド5が最も高位、バンド1が最も低位を示す

英語の結果から見えてくること

英語では、平均正答数・平均 IRT スコアのいずれも全国を上回り、多くの領域で高い学力水準がみられました。

○「読むこと・書くこと」に関する領域では、平均正答数が 2.9 問となり、全国平均を 0.4 問上回りました。必要な情報を読み取る力、まとまりのある文章を書く力に強みがみられます。また、学力分布では高位層にあたるバンド4・5の割合が 41.8%となり、全国（28.6%）を大きく上回りました。一方で、学習支援を要するバンド1・2の割合は 25.3%で、全国（32.9%）を下回っており、基礎的な英語力を身に付けた生徒が多いことがうかがえます。

△一方で、「聞くこと」に関する領域では、平均正答数が 1.2 問と全国平均と同水準にとどまりました。読むことや書くことと比較すると相対的に成果が低く、音声による英語を聞き取り、内容を理解する力の向上が課題として考えられます。

10(2) インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞　※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

【正答の条件】
次の条件を満たして解答している。
条件①　書き手の意見に対する自分の考えを書いている。＜解答欄＞の「あなたの考え」に該当する部分
条件②　条件①の理由を書いている。＜解答欄＞の「なぜそう考えるのか」に該当する部分

【正答例】
○ Your opinion is good. Students can get a lot of information for learning on the internet.
○ No, I don't. The internet is not helpful because some information is wrong.



条件②を満たせない解答が多かったみたいだね。

条件①の答えに対して、「なぜそう考えたのか」理由を書いてみるでござるよ。



「読む、書くこと」

「聞くこと」

問題の詳細は左のQRコードより確認することができます。

書かれている文章を読み取り、自分の意見や考えと理由を書く力をつけよう。

今回の問題は、社会的な話題に関する英文を読んだことについて、解答として書き手の意見に対して自分の考えを書いているか、その自分の考えの理由を書いているかの2つの条件を満たす必要がありました。文書を読み、要点を理解する読解力だけでなく、読んだ内容を踏まえて自分の立場を表明し、自分の考えと理由を整理することが大切です。

学習する際に、文章の要点を捉えるだけでなく、読んだ内容に基づいて自分の考えを形成し、その理由を整理したことを英語で表現する力へとつなげます。そのため、読む活動と書く活動を関連付け、「自分の考え＋理由」を一体的に表現する言語活動が重要です。学校では短い文での「書くこと」の活動や、自分の意見をまとめる活動を行います。また、書いた文章をお互いに共有して話し合ったり、先生やALTからのフィードバックやAI英語を活用したり、文章の推敲を行う学習活動を取り入れていきます。

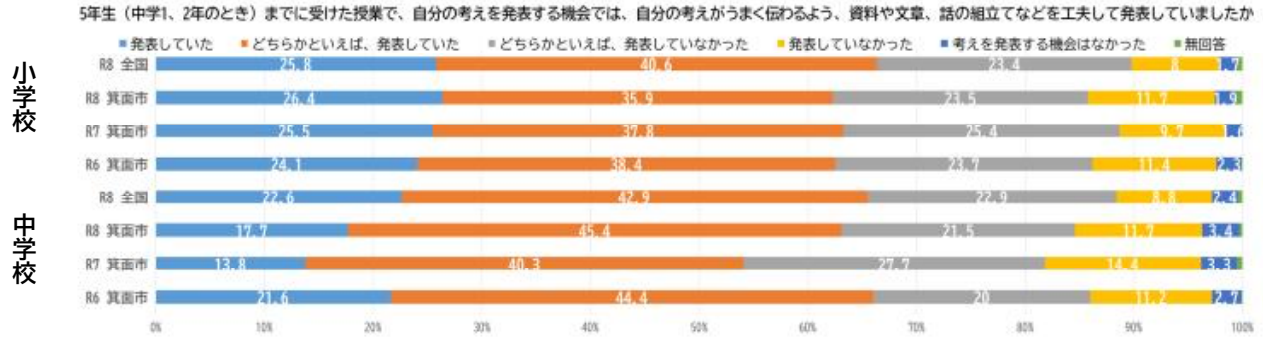
令和8年度箕面市児童生徒「学習状況調査」結果から

日々の積み重ねを力に、羽ばたく子どもたち

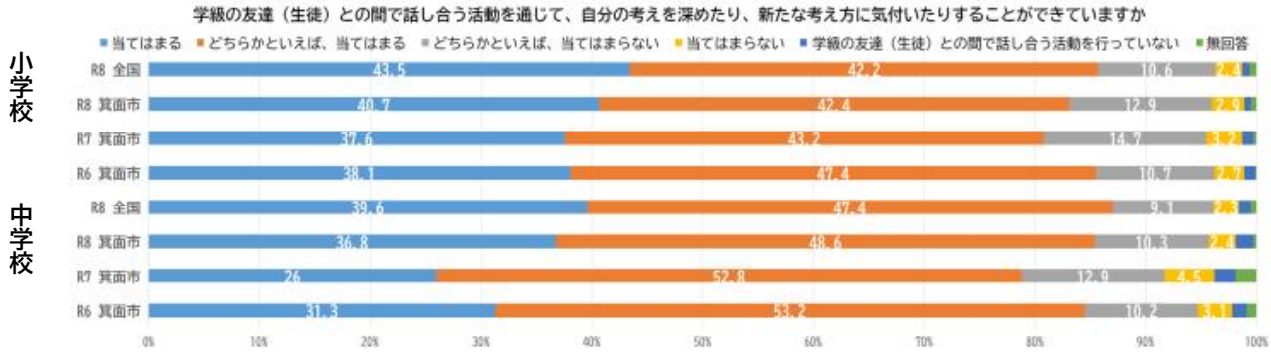
学習状況調査は、アンケート形式で箕面の子どもたちの学習や生活の状況を把握するものです。調査結果からは、学習への向き合い方や友だちとの関わり、家庭での学習、将来への意識、地域や社会との関わりなど、箕面の子どもたちの様々な姿がうかがえます。

以下、今回の調査結果から見えてきた子どもたちの様子を整理するとともに、それらをふまえ、今後さらに進めていく具体的な取り組みについて、いくつかの視点から考察します。

学校生活の様子

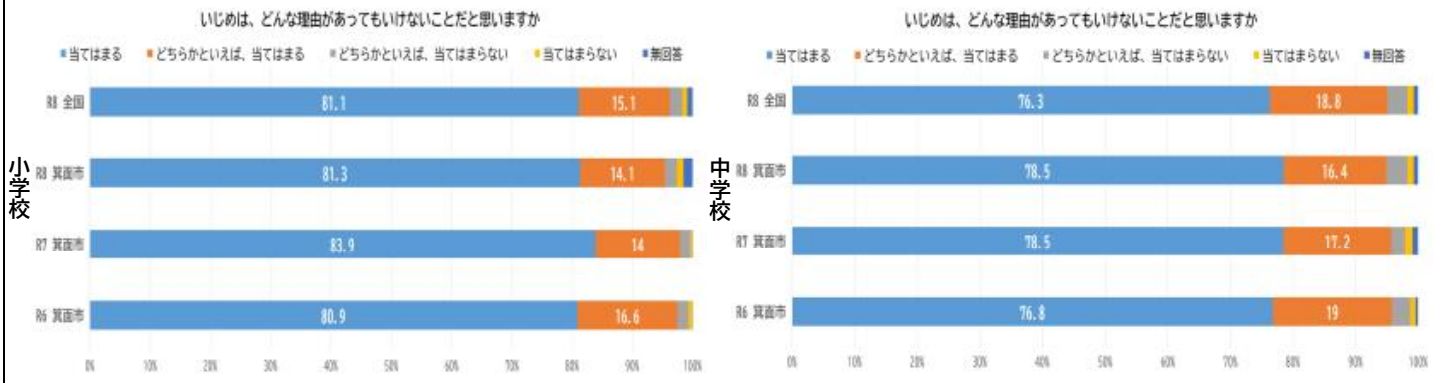


「5年生（中学 1、2 年のとき）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回りました。昨年度と比べると、小学校ではほぼ同程度で、中学校では肯定的に回答した生徒の割合が増加しています。今後も、各学年の発達段階に応じて、自分の考えを表現する機会を保障するとともに、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝える力の育成に取り組んでいきます。



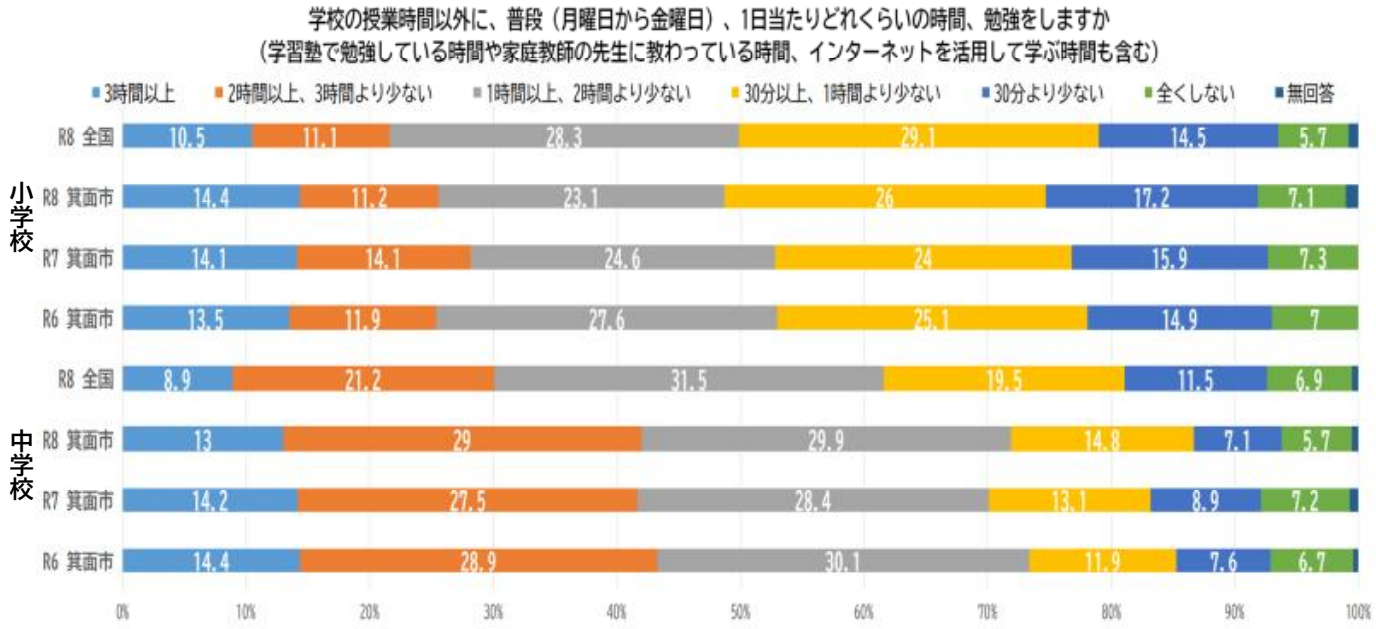
「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回りました。昨年度と比べると、肯定的に回答した割合は、小・中学校ともに増加しています。自分の考えを相手に伝えたり、様々な考えを受け止めたりするなど、対話を通して学びを深めることが大切です。今後も、学校生活の様々な場面で対話的な活動を取り入れ、児童生徒が互いの考えを交流しながら学びを深められるよう取り組んでいきます。

いじめについて



「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回りました。一方で、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒もいることから、学校をはじめ、地域や家庭がいじめは絶対に許されないという認識を共有し、継続して児童生徒に働きかけていく必要があります。また、日々の授業や道徳教育を通して、一人一人の個性や違いを尊重する態度や価値観を育んでいきます。

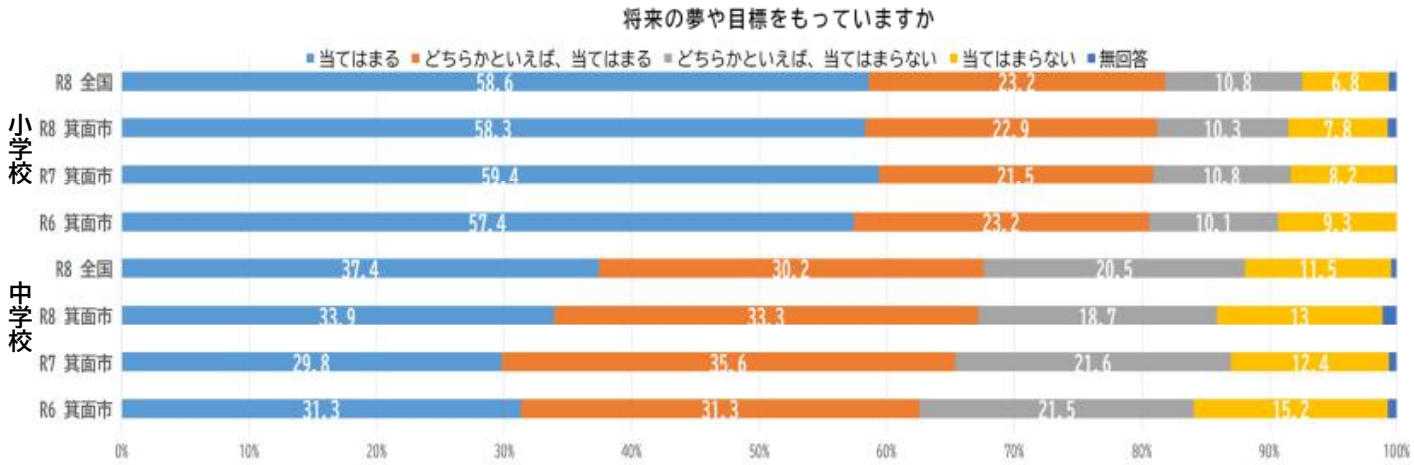
家庭での様子



「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対し、「2時間以上学習する」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回りました。昨年度と比べると、小学校ではその割合が減少し、中学校ではほぼ同程度となっています。

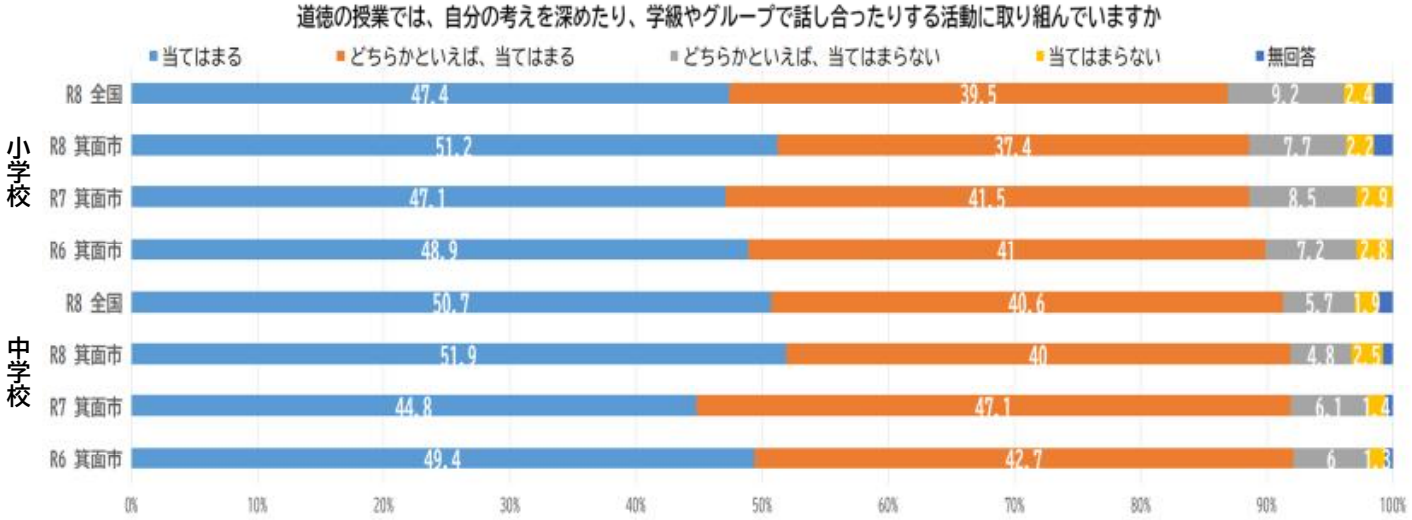
一方で、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国と比べてやや上回りましたが、中学校では全国を下回り、昨年度と比べても減少しています。家庭学習の取組状況は校種や学習時間によって異なる傾向が見られることから、今後も、家庭学習の方法や取組事例を示すなど、児童生徒が自分に合った学習に継続して取り組めるよう支援していきます。

自分自身について



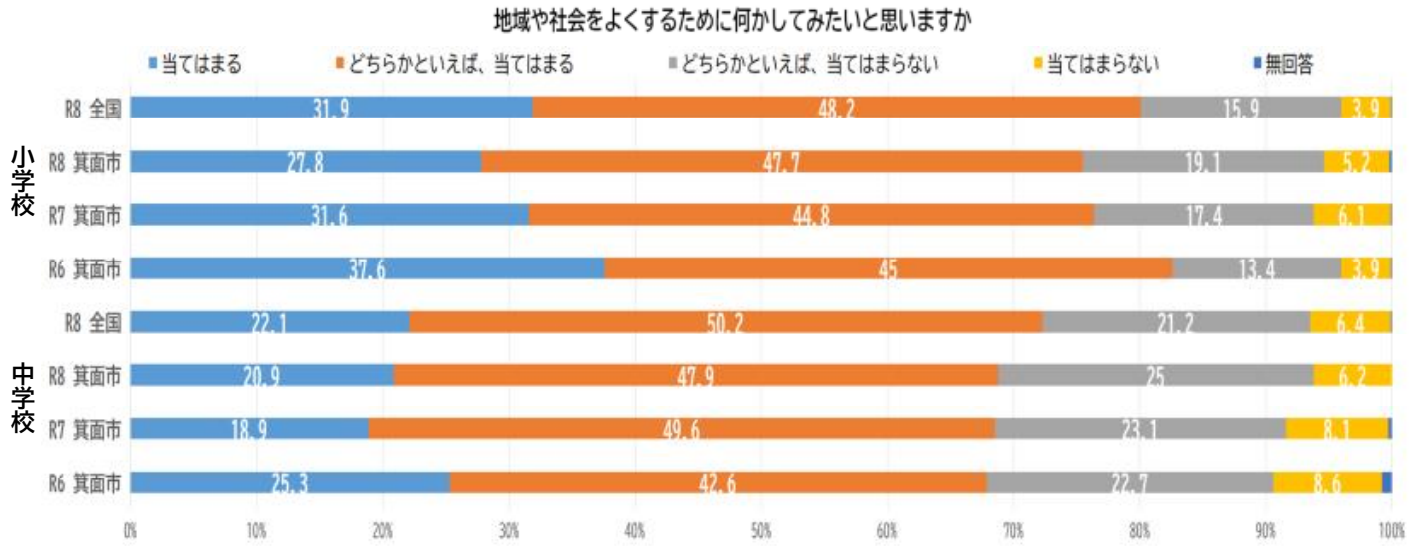
「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と概ね同程度となりました。昨年度と比べると、小学校では肯定的に回答した児童の割合がほぼ同程度で、中学校では生徒の割合は増加しています。また、中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合も昨年度より増加していますが、全国を下回っています。今後も、児童生徒一人一人が、自分のよさや関心に気付き、将来について考える機会を充実させるなど、小・中学校を通してキャリア教育を推進していきます。

＜道徳＞



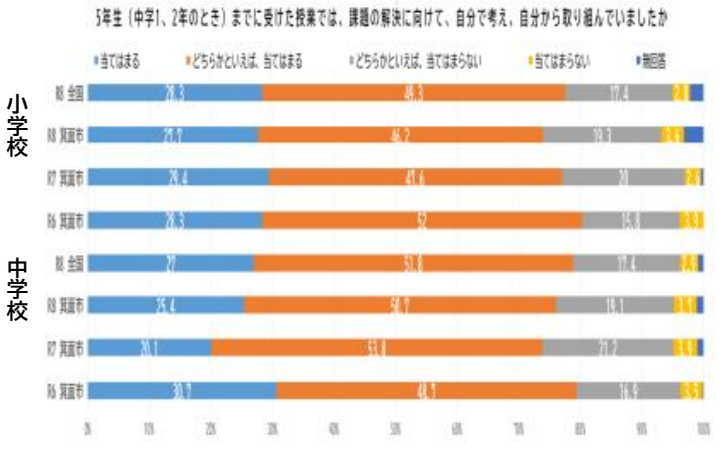
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回りました。昨年度と比べると、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに同程度となっています。また、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は小・中学校ともに増加しており、特に中学校では小学校より大きな増加が見られました。今後も、一人一人が安心して意見を述べ、多様な考え方に触れながら学びを深められる道徳の授業を充実させていきます。

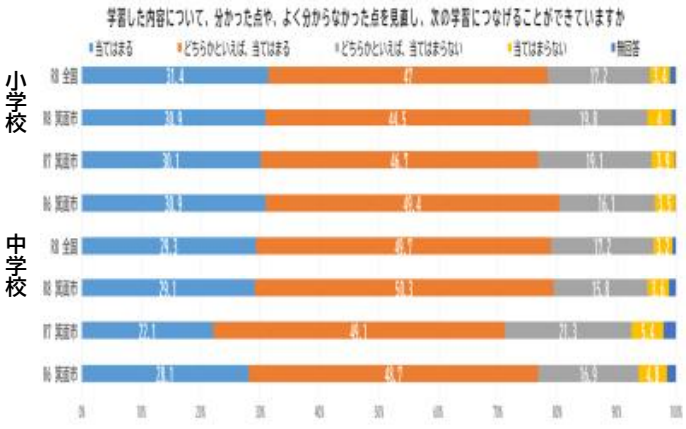
地域や社会との関わり



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回りました。昨年度と比べると、肯定的に回答した割合は、小・中学校ともにほぼ同程度となっています。また、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合についても、小・中学校ともに全国を下回りました。今後も、学校や地域での学びや経験をさらに充実させ、児童生徒が自ら地域や社会に関わろうとする意識を育めるよう、取組を進めていきます。

＜授業・学習への関心＞





「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回りました。昨年度と比べると、肯定的に回答した割合は、小学校では減少し、中学校では増加しています。一方、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では全国を下回りましたが、中学校では全国と概ね同程度となりました。昨年度と比べると、肯定的に回答した割合は、小学校では減少し、中学校では増加しています。今後も、児童生徒一人一人の学びの状況を捉えながら、主体的に学ぶ力を育むための指導・支援を充実させていきます。

調査全体のまとめ

【子どもたちの強みと特徴】

〇豊かな人権感覚と高い道徳性

「いじめは許されない」とする強い意識や、道徳の授業での話し合い活動を通して、自らの考えを深める姿勢が根付いており、一人一人の個性を尊重する豊かな土台が育まれています。

〇定着した基本的生活習慣

中学校において「家庭学習を全くしない」生徒の割合が極めて低いなど、日々の学習や生活に対する真面目な姿勢と継続性が着実に積み重ねられています。

【今後の課題と取組の方向性】

〇主体的な学びと自己表現力の伸長

友達との対話を通して学びを深めたり、課題解決に向けて自ら考え行動したり、自身の考えが伝わるよう工夫して発信したりする、表現力をいかに高めていくかに課題が見られます。

〇地域社会への参画意識とキャリア観の醸成

「地域や社会をよくするために貢献したい」という意識や、将来の目標に向けた具体的なイメージを小・中学校を通じて一層高めていく取組が必要です。

今回の分析で示された子どもたちの確かな成長の土台を生かしつつ、明確になった課題の解決に向けて、学校・家庭・地域が一体となり「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に取り組んでいきます。

「いじめ」について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回りました。一方で、否定的に回答した児童生徒もいることから、今後も、いじめはどのような理由があっても許されないという認識を共有できるよう、継続して働きかけていくことが大切です。

箕面市では、「箕面市いじめ防止基本方針」に基づき、各学校において「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいます。

令和8年度には、子ども理解の幅を広げるため、「子どもの心の受け止め方」をテーマに全教職員を対象とした研修を実施し、全ての児童生徒にとって「支援教育の視点を生かした学びやすさのある学級づくり」が必要であることを再確認しました。

今後も、児童生徒一人一人の状況を丁寧に捉え、学校・家庭・地域・関係機関が連携しながら、全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを進めていきます。また、誰もが安心できる集団づくりに向けて、一人一人の持ち味を大切にし、自己有用感を育む教育活動を進めていきます。

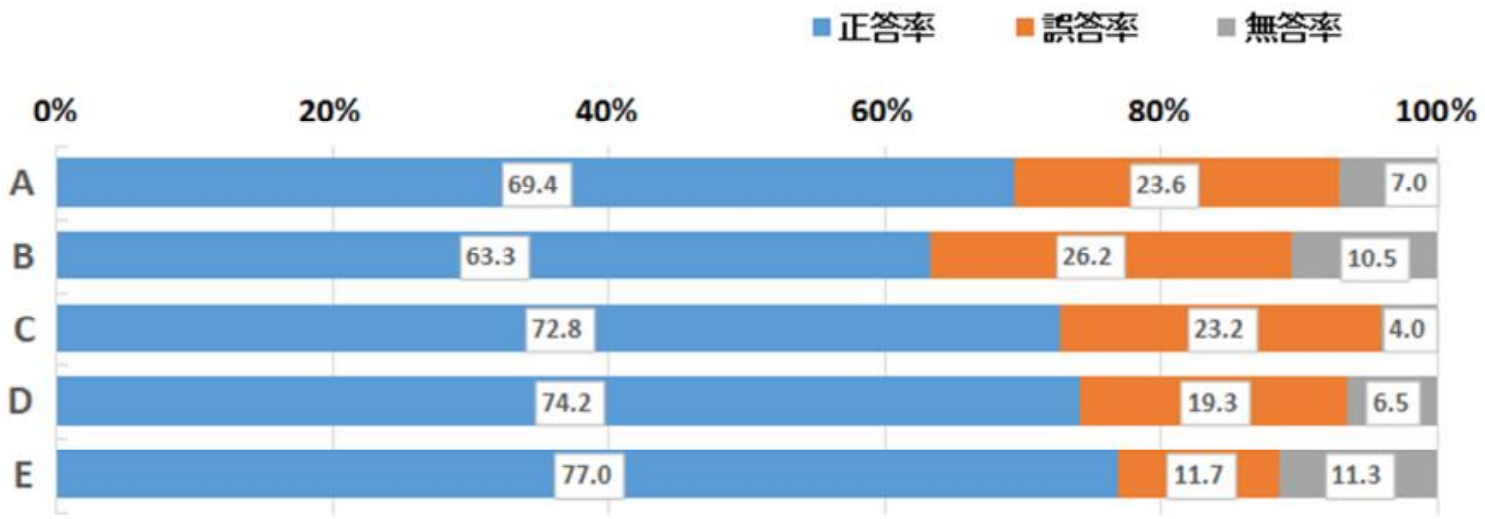
箕面市　令和8年度　大阪府すくすくウォッチ　わくわく問題(教科横断型問題)＜概要＞

■わくわく問題の5つの観点

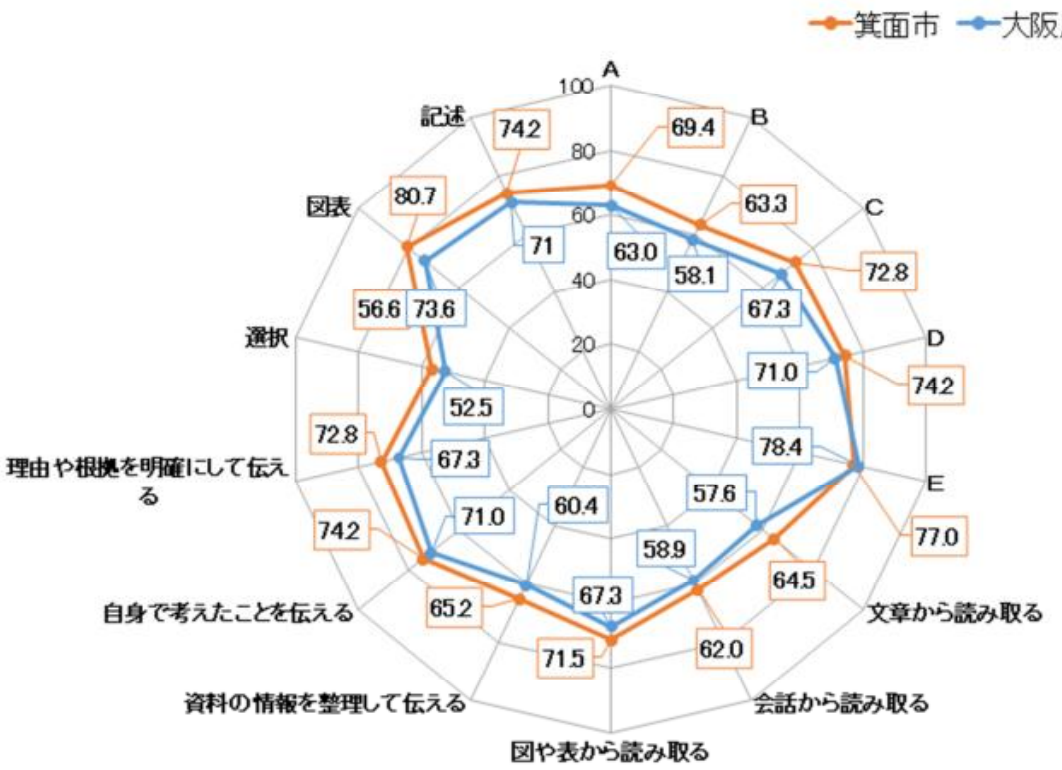
多様な他者と協働し、探究的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力

A	図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。
B	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。
C	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。
D	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。
E	興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。

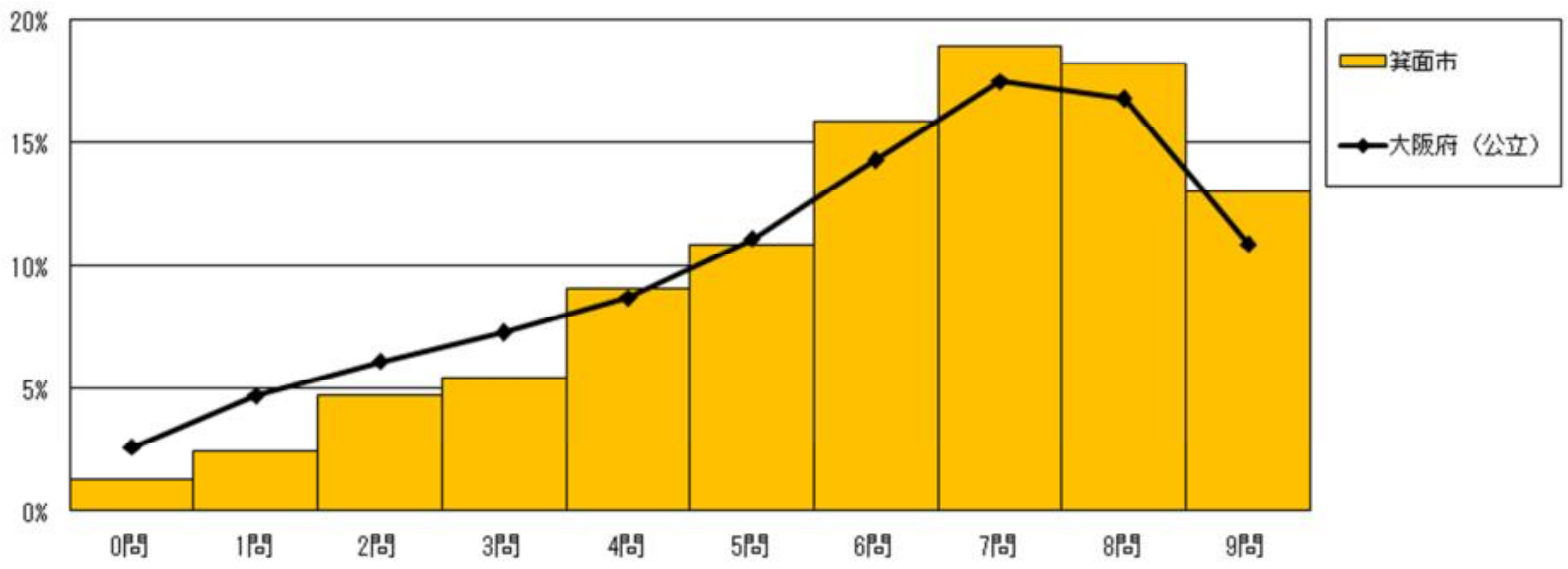
観点別正答率



分類・区分別正答率



正答数分布



わくわく問題から見えてくること

わくわく問題とは、特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題です。

・文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。

・答えは、記号を選んだり、文章を書いたり、図に色を塗ったり、絵を描いたりします。答えが１つでないものもあります。

概ね全ての領域、観点、問題形式で大阪府と比べて上回っています。

○「(A)図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。」問題は、大阪府の正答率を6．4ポイント上回りました。

○「(C)図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。」問題についても大阪府の正答率を5．5ポイント上回りました。

△「(E)興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。」問題の正答率は、大阪府の正答率を1．4ポイント下回りました。

箕面市　令和8年度　大阪府すくすくウォッチ　わくわく問題(教科横断型問題)＜概要＞

課題が見られた問題

2

（2）中村さんのお話と【みんなの意見】をすべて満たして【画面移動の図】を完成させるには、【画面移動の図】にあと3か所矢印を加える必要があります。必要な矢印を3つ書き加えましょう。

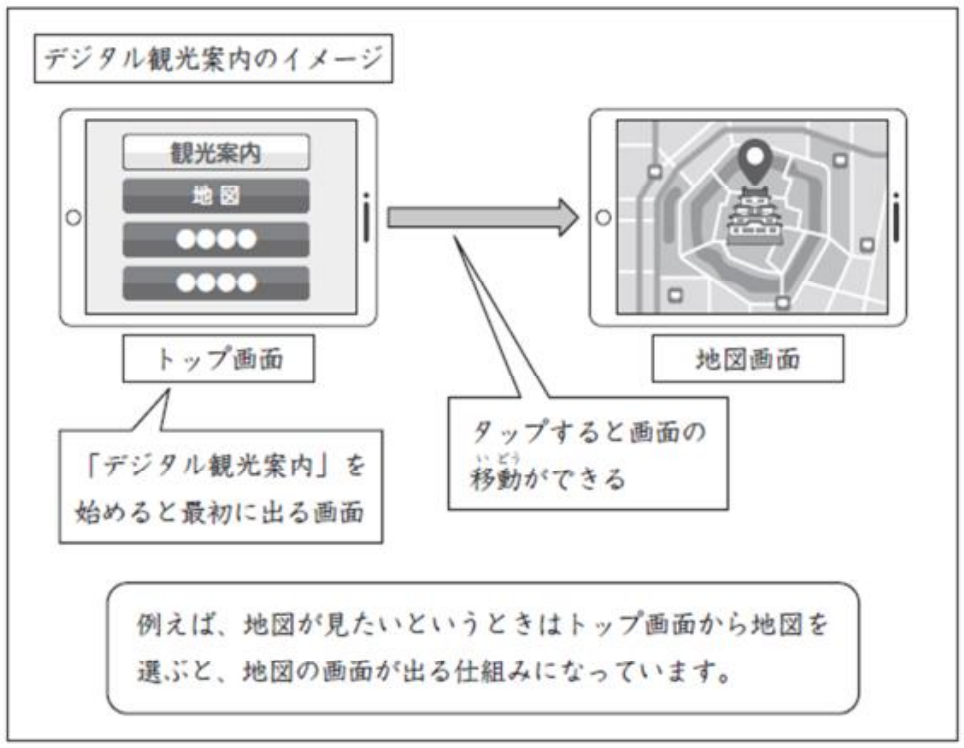
問題文QRコード

2 かなたさんのクラスは、総合的な学習の時間に、大阪を訪れる人に大阪の魅力を感じてもらおうと、大阪観光をテーマに学習を進めています。

かなたさんのグループは、地域の観光案内所で働く中村さんからお話を聞くことになりました。


中村さん

私たちは、この地域にやってくる外国人旅行者の方が観光中に快適に過ごせるようにしたいと考え、タブレット端末やスマートフォンから見ることができるいろいろな国の言葉に対応した「デジタル観光案内」を作っているところです。「デジタル観光案内」にどのような機能があるとよいか一緒に考えてみませんか。




中村さん

説明の画面以外はトップ画面から移動ができるとよいですね。利用する人にとって使いやすいように画面と画面の間の移動を考えましょう。

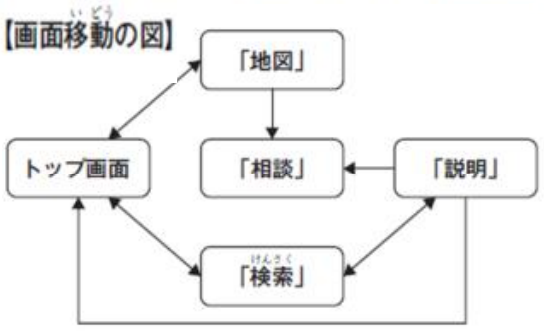
【みんなの意見】

- どの画面からもトップ画面にはもどれるほうが使いやすい。
- 「検索」画面から「説明」画面に行けて、説明を読んだら、「検索」画面にもどれるほうがよいと思う。
- 「地図」画面で観光地などを見つけたら、「説明」画面が見たいと思う。見終わったら「地図」画面にもどれると使いやすそう。
- 緊急時にすぐ使えるように、「相談」画面にはどの画面からでも行けるとよさそう。
- 相談をしているときにまちがって他の画面に行かないように、「相談」画面からはトップ画面にしか行けないほうがよいと思う。

問い　中村さんのお話と**【みんなの意見】**をもとに下の**【画面移動の図】**を作りました。中村さんのお話と**【みんなの意見】**をすべて満たして**【画面移動の図】**を完成させるには、**【画面移動の図】**にあと**3か所**矢印を加える必要があります。解答用紙の**【画面移動の図】**に必要な矢印を**3つ**書き加えましょう。

書き加える矢印はあとの**【矢印の種類】**から選びましょう。

【画面移動の図】

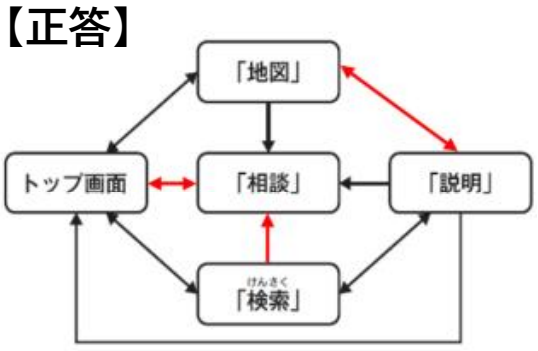


【矢印の種類】

↔　矢印の両方に進んだり、もどったりできる。

→　矢印の先に進めるが、もどれない。

【正答】



【みんなの意見】を全て満たすことがポイントでござる。
「もどれる」ようにするなら↔になるでござるな。



インターネットのページを設計する時は、このように図を使って考えられるんだね。

この問いの正答率が28.8%と、わくわく問題のなかで最も低い結果となりました。また、矢印の「種類」や「向き」が正しくないものの、「位置」は正しく答えられている児童の割合は43.4%に上りました。

画面間のつながりを捉えることはできていても、複数の意見を関連付けて読み取り、その条件を全て満たすように画面間のつながりを矢印の「種類」や「向き」まで正確に表すことが難しかったと考えられます。

教科学習だけではわからない、子どもたちの「見えない学力」を育みます

『すくすくウォッチ　わくわく問題』では、各教科の学力に加え、子どもたちにことばの力や、文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、ねばり強さや好奇心を育むことを目的としています。子どもたち自身が自分の得意な力を知り、その力を生かしながら学習や遊び、行事、友だちとの会話、読書やいろいろな活動に挑戦していくことで、他の力も伸ばしていくことができます。大切なのは、「なぜ？どうして？」と考えることです。学校では、日々の学習活動の中で子どもたちがそれぞれの強みを生かしながら、友だちと協力し課題解決する力の育成を目指します。

箕面市　令和８年度 箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査

平均/全国平均記録一覧　※全国平均値以上…白抜き

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	２０ｍシャトルラン	５０ｍ走	立ち幅跳び	ボール投げ
単位	kg	回	cm	回	回	秒	cm	m
小１男子						11.9 / 11.6	110.4 / 116.0	7.4 / 8.3
小１女子						12.1 / 11.9	105.8 / 108.2	5.3 / 5.7
小２男子						10.9 / 10.7	121.6 / 126.5	10.6 / 11.8
小２女子						11.3 / 11.1	114.4 / 117.9	6.6 / 7.4
小３男子	11.7 / 12.4	15.6 / 16.2	31.4 / 30.4	35.0 / 34.5	36.1 / 34.9	10.1 / 10.2	135.2 / 135.4	14.2 / 15.0
小３女子	11.0 / 11.7	14.4 / 16.1	34.5 / 33.2	32.7 / 32.9	25.4 / 27.6	10.6 / 10.4	126.0 / 128.0	8.7 / 9.5
小４男子	13.5 / 14.3	17.2 / 18.2	32.9 / 31.9	38.9 / 39.1	45.2 / 43.7	9.8 / 9.7	141.6 / 145.6	17.8 / 18.9
小４女子	12.7 / 13.6	16.6 / 17.1	36.4 / 35.2	36.9 / 37.1	32.1 / 33.6	10.2 / 10.0	132.5 / 136.0	10.4 / 11.6
小５男子	15.5 / 16.1	19.6 / 19.8	35.1 / 33.4	42.6 / 42.1	49.0 / 50.5	9.4 / 9.4	153.0 / 154.0	20.2 / 21.7
小５女子	15.2 / 16.0	18.4 / 18.9	39.4 / 38.3	40.2 / 40.4	36.3 / 40.0	9.8 / 9.6	143.7 / 145.4	12.0 / 13.6
小６男子	18.2 / 19.3	21.8 / 22.5	37.2 / 36.5	44.7 / 45.9	57.5 / 60.0	9.0 / 8.9	163.8 / 166.6	23.6 / 25.7
小６女子	17.7 / 19.4	19.8 / 20.2	42.0 / 41.2	41.9 / 42.9	42.1 / 45.5	9.5 / 9.2	152.4 / 155.6	13.9 / 15.7
中１男子	22.8 / 24.3	24.0 / 23.8	42.8 / 41.7	49.2 / 50.2	64.4 / 67.8	8.7 / 8.4	177.7 / 187.1	17.5 / 18.4
中１女子	20.8 / 21.5	20.6 / 20.1	45.9 / 44.6	45.0 / 45.8	44.1 / 47.4	9.4 / 9.1	158.8 / 166.4	10.4 / 11.4
中２男子	28.4 / 29.5	26.7 / 26.7	46.8 / 45.2	53.7 / 53.4	79.9 / 83.1	8.0 / 7.8	198.8 / 203.2	20.8 / 21.4
中２女子	23.2 / 23.6	22.4 / 22.1	49.0 / 46.5	46.8 / 47.0	50.5 / 54.2	9.1 / 8.8	165.7 / 172.4	12.1 / 13.1
中３男子	33.3 / 34.4	29.0 / 29.0	52.5 / 49.0	55.8 / 56.6	85.4 / 90.6	7.7 / 7.5	210.8 / 217.0	23.0 / 24.0
中３女子	24.0 / 25.3	22.6 / 23.9	52.2 / 49.8	47.3 / 48.8	49.9 / 56.1	9.1 / 8.7	168.3 / 176.8	12.5 / 14.4

※平均値は、四捨五入して表示しているため、表示上は全国平均値と同じ数値であっても、四捨五入前の数値との比較により白抜きとならない場合があります。

偏差値一覧　※数字及び記号の表記（５０以上…白抜き　４８以上５０未満…△　４８未満…▲）

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	２０ｍシャトルラン	５０ｍ走	立ち幅跳び	ボール投げ
小１男子						47.1 ▲	46.7 ▲	47.1 ▲
小１女子						48.2 △	48.5 △	47.7 ▲
小２男子						48.2 △	47.3 ▲	47.4 ▲
小２女子						47.6 ▲	47.9 ▲	46.6 ▲
小３男子	47.8 ▲	49.0 △	51.3	50.6	50.7	50.6	49.9 △	48.5 △
小３女子	47.5 ▲	46.6 ▲	51.7	49.6 △	48.3 △	47.6 ▲	48.9 △	47.4 ▲
小４男子	47.5 ▲	48.3 △	51.2	49.7 △	50.8	48.5 △	47.9 ▲	48.4 △
小４女子	47.0 ▲	49.1 △	51.6	49.7 △	49.0 △	47.9 ▲	48.1 △	46.8 ▲
小５男子	48.4 △	49.6 △	52.0	50.6	49.3 △	50.0 △	49.5 △	48.1 △
小５女子	47.9 ▲	49.2 △	51.2	49.7 △	47.8 ▲	48.0 △	49.1 △	46.5 ▲
小６男子	47.6 ▲	48.9 △	50.9	48.4 △	48.9 △	48.6 △	48.8 △	47.8 ▲
小６女子	46.2 ▲	49.3 △	50.9	48.4 △	48.1 △	47.1 ▲	48.5 △	46.7 ▲
中１男子	47.6 ▲	50.4	51.0	48.5 △	48.6 △	46.9 ▲	46.4 ▲	48.3 △
中１女子	48.6 △	50.9	51.2	48.8 △	48.3 △	45.6 ▲	46.6 ▲	47.3 ▲
中２男子	48.5 △	49.9 △	51.5	50.4	48.7 △	47.6 ▲	48.2 △	49.1 △
中２女子	49.2 △	50.6	52.5	49.6 △	48.2 △	46.4 ▲	47.2 ▲	47.6 ▲
中３男子	48.6 △	49.9 △	53.1	49.0 △	47.9 ▲	45.7 ▲	47.4 ▲	48.5 △
中３女子	47.2 ▲	47.8 ▲	52.3	47.6 ▲	46.9 ▲	44.3 ▲	46.3 ▲	46.0 ▲

※偏差値は、四捨五入して表示しています。記号（白抜き・△・▲）は四捨五入前の値に基づいて判定しているため、表示値が５０であっても白抜きとならない場合があります。

【概要】

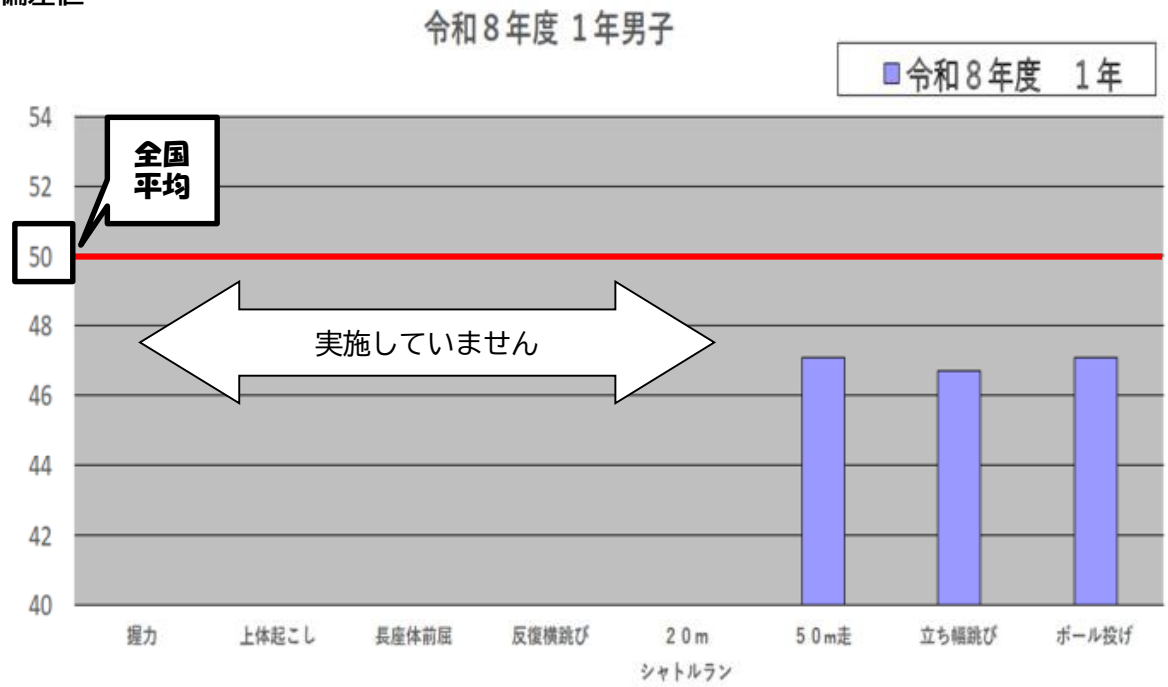
◆「長座体前屈」では、３年（小３）～９年（中３）の男子・女子ともに全国平均値を上回る結果となりました。

◆３年（小３）男子では、「長座体前屈」「反復横跳び」「２０mシャトルラン」「５０m走」において全国平均値を上回る結果となりました。

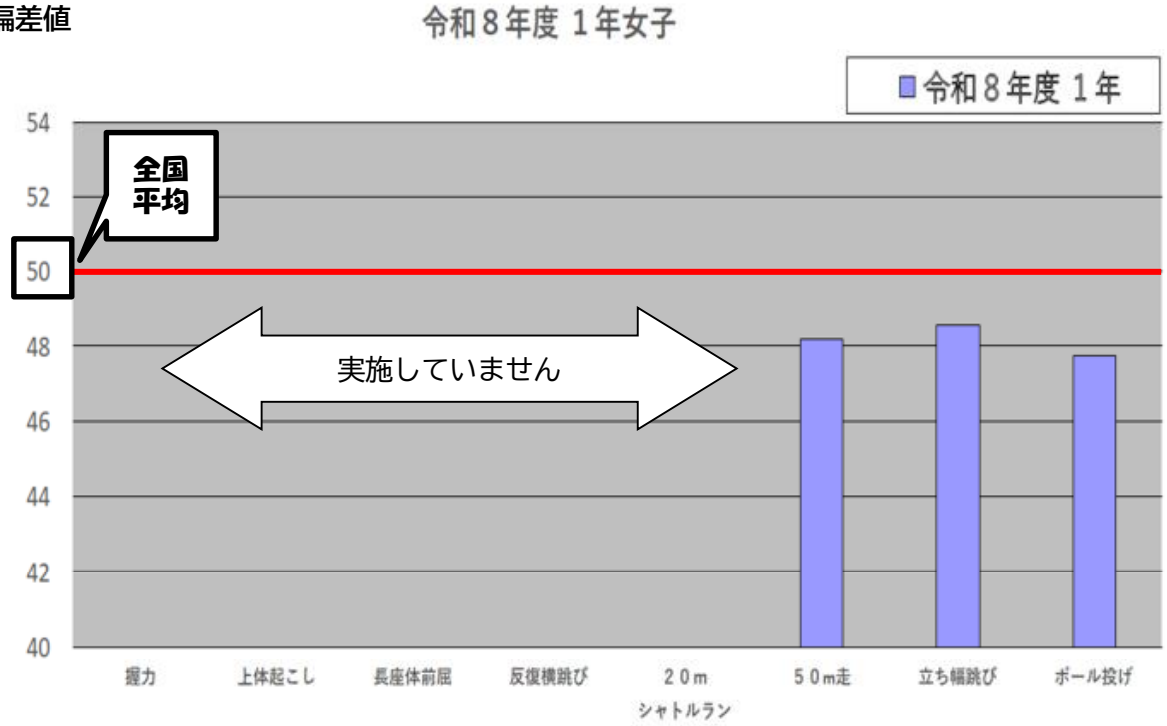
◆「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」では、全学年の男子・女子ともに全国平均値を下回る結果となりました。

１年生　各種目結果の学年別経年比較

偏差値



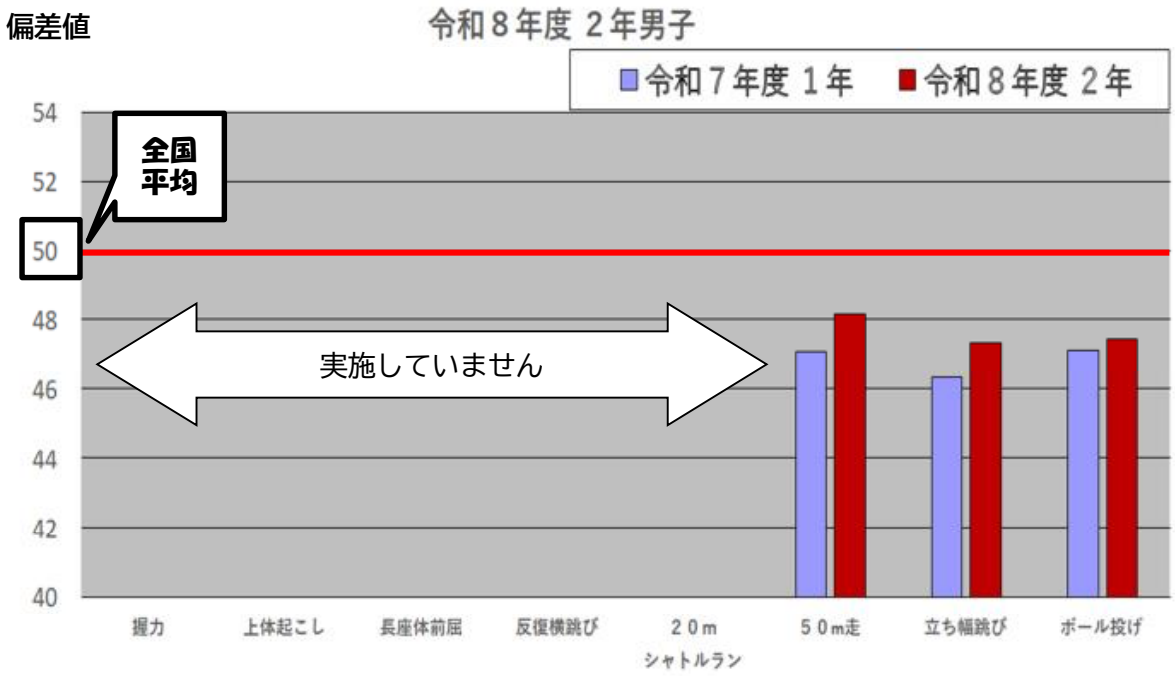
偏差値

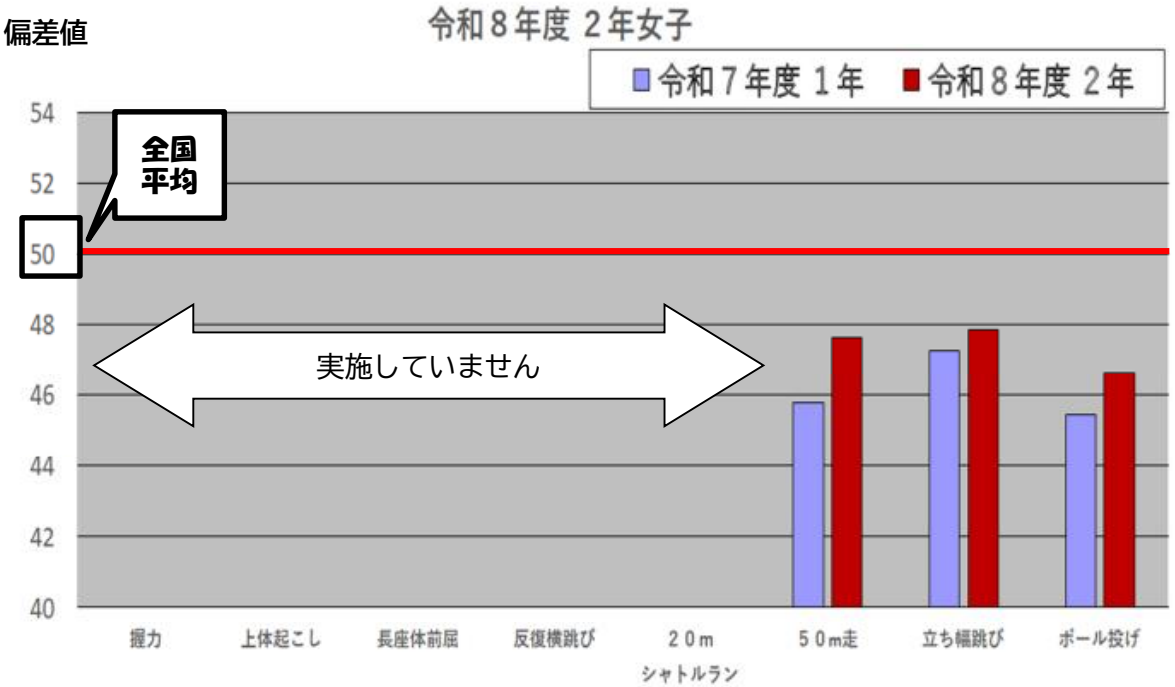


男子・女子ともに、全ての種目において全国平均値を下回っています。特に男子は「立ち幅跳び」、女子は「ボール投げ」が低い結果となっています。

幼稚園や保育所等と課題を共有し、就学前から体を動かす機会の充実や運動習慣の形成を図る取組を進めていきます。

２年生　　各種目結果の学年別経年比較



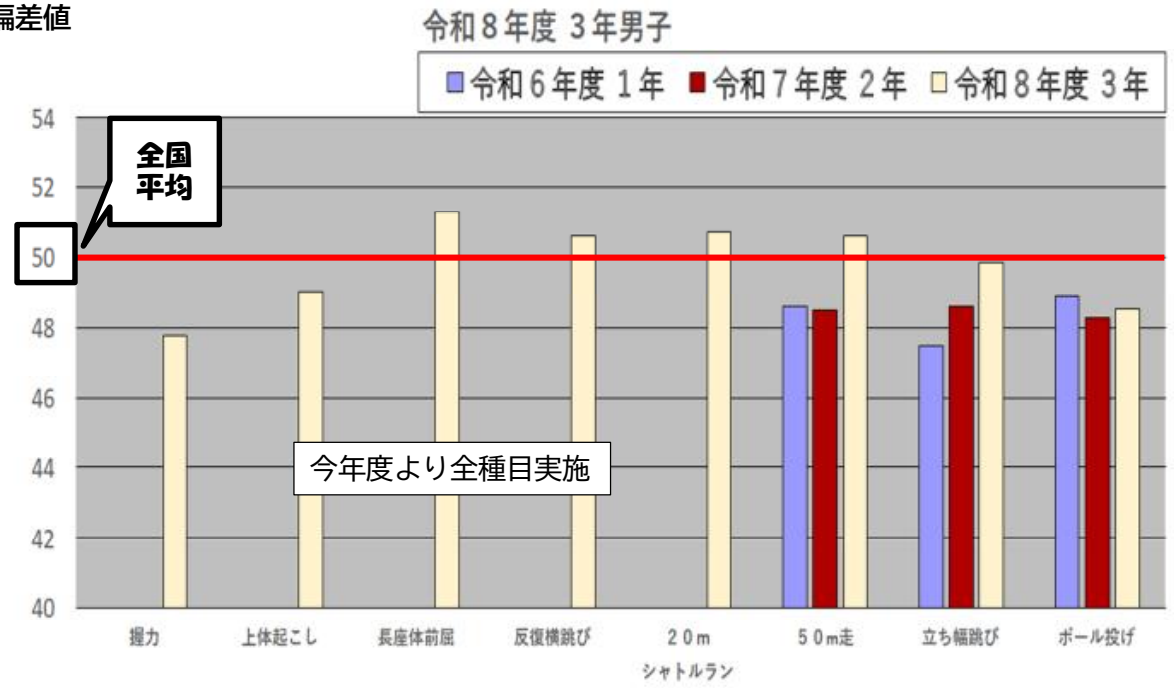


男子・女子ともに、全ての種目において全国平均値を下回っています。一方で、男子・女子ともに全ての種目において、前年度を上回る結果となっています。

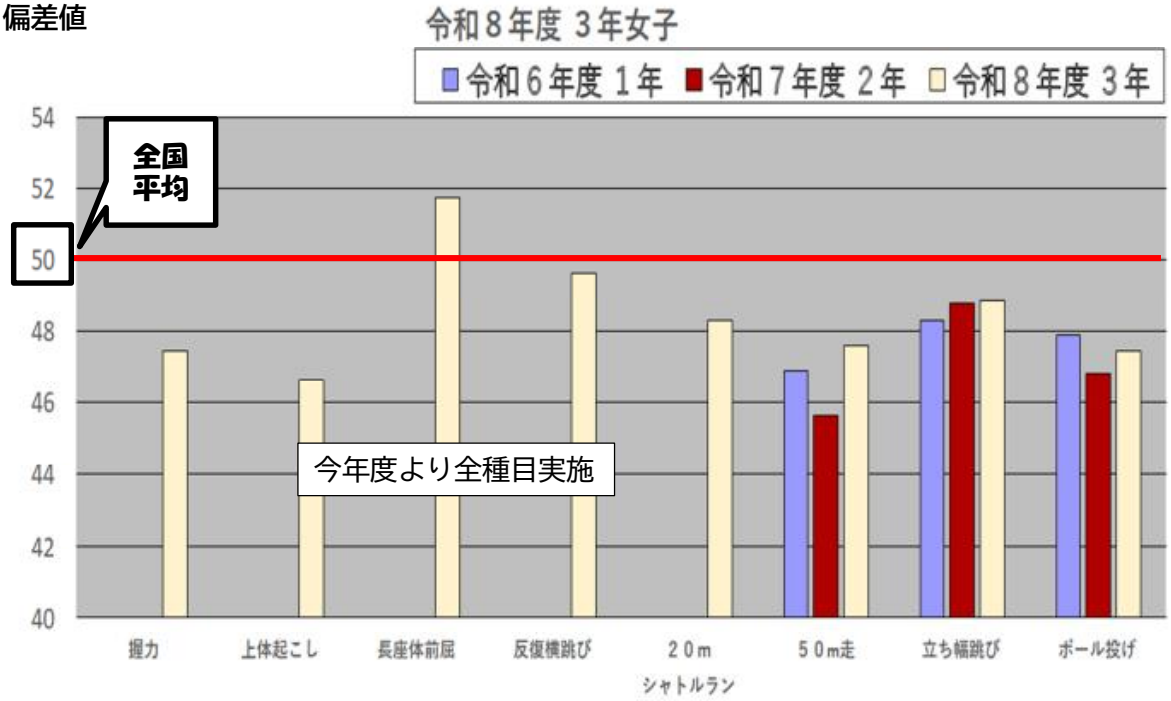
走力や跳躍力、投力の向上をめざした運動に継続して取り組み、体力の向上を図っていきます。

３年生　各種目結果の学年別経年比較

偏差値



偏差値

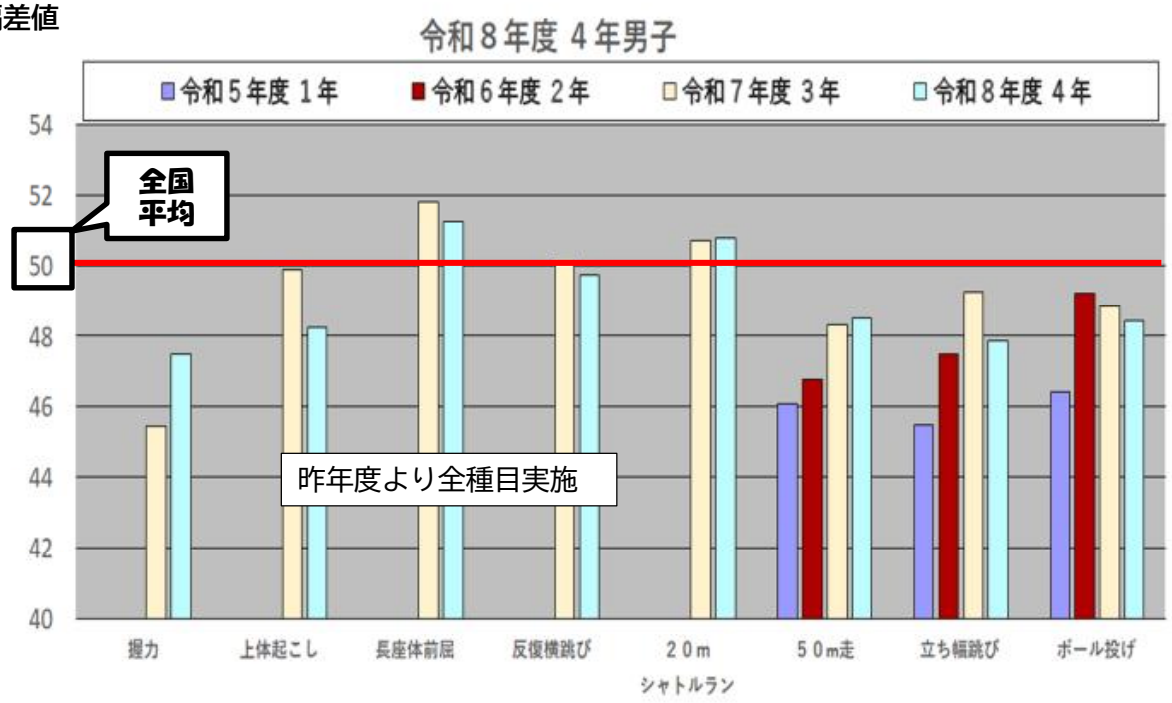


男子は「長座体前屈」「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」「５０ｍ走」、女子は「長座体前屈」の種目において、全国平均値を上回っています。また、男子・女子ともに「５０ｍ走」「立ち幅跳び」「ボール投げ」で前年度を上回る結果となっています。

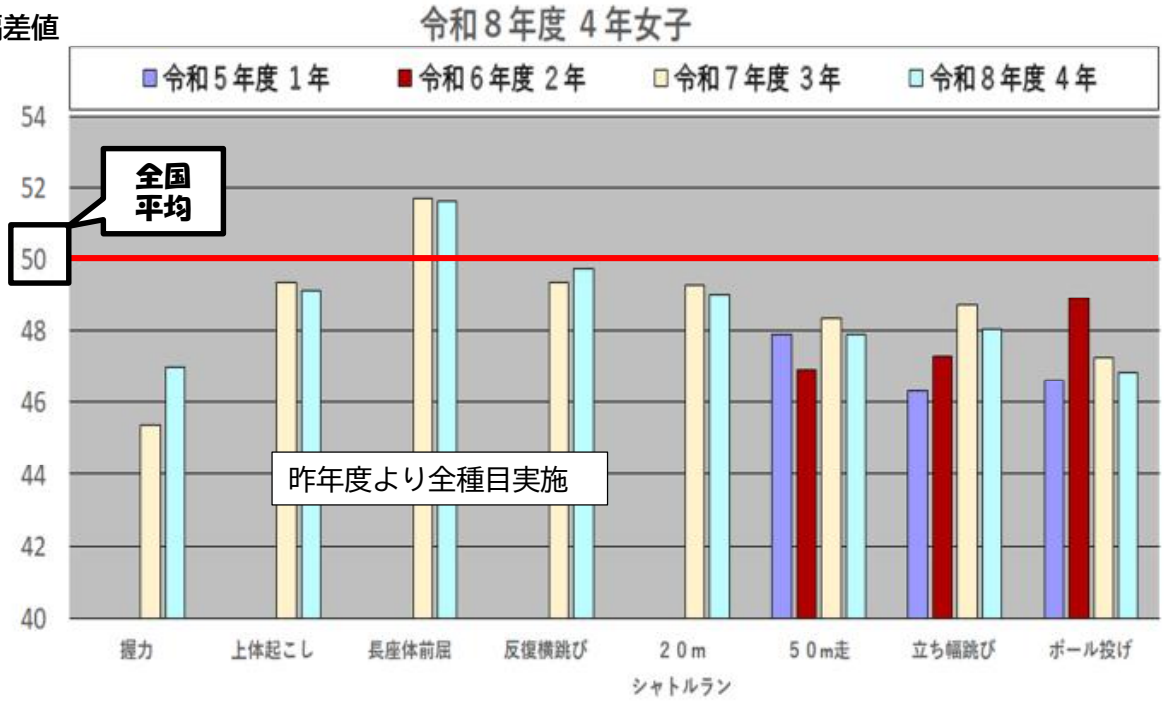
特に投力を高める運動に取り組み、さらなる改善を図っていきます。

４年生　各種目結果の学年別経年比較

偏差値

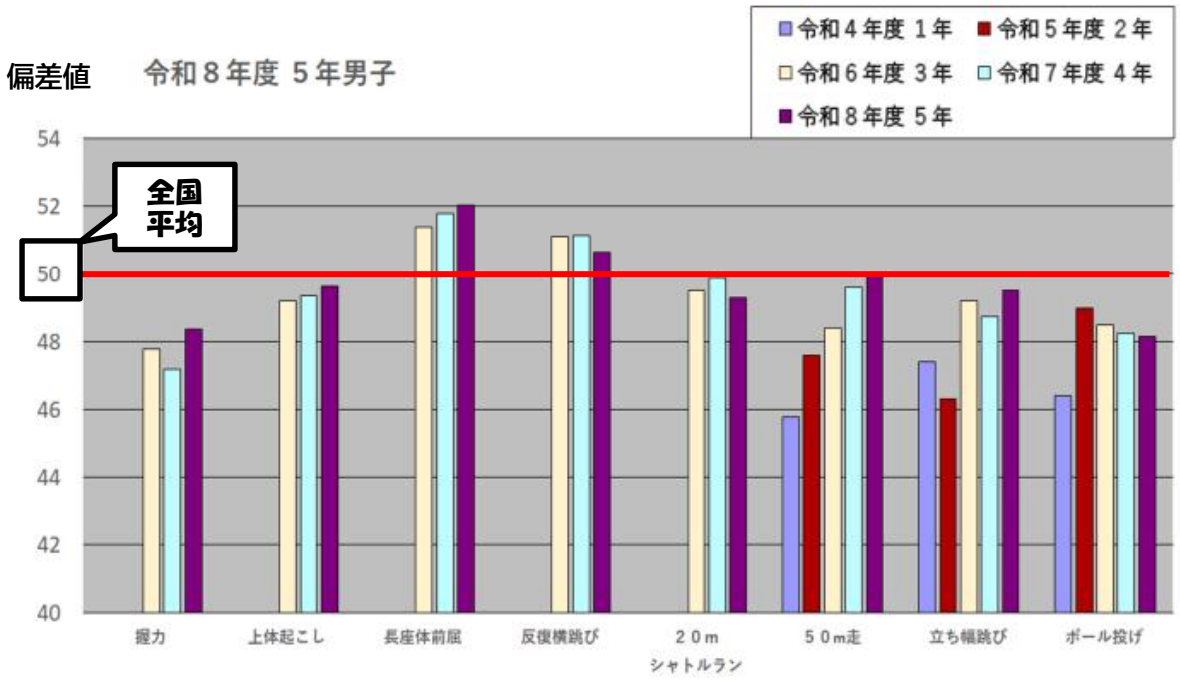


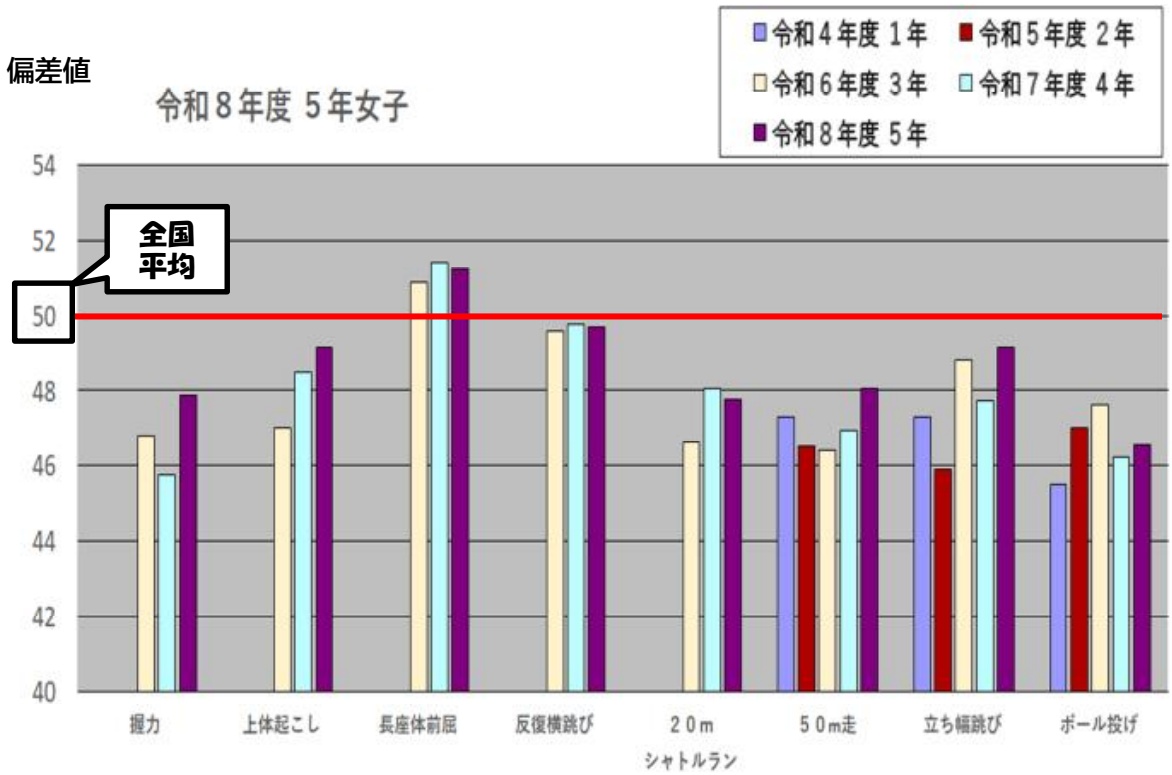
偏差値



男子は「長座体前屈」「２０ｍシャトルラン」、女子は「長座体前屈」において、全国平均値を上回っています。男子・女子ともに「握力」は前年度を上回る結果となっています。一方で、依然として「握力」には課題が見られることから、筋力を高める運動に取り組み、改善を図っていきます。

５年生　各種目結果の学年別経年比較

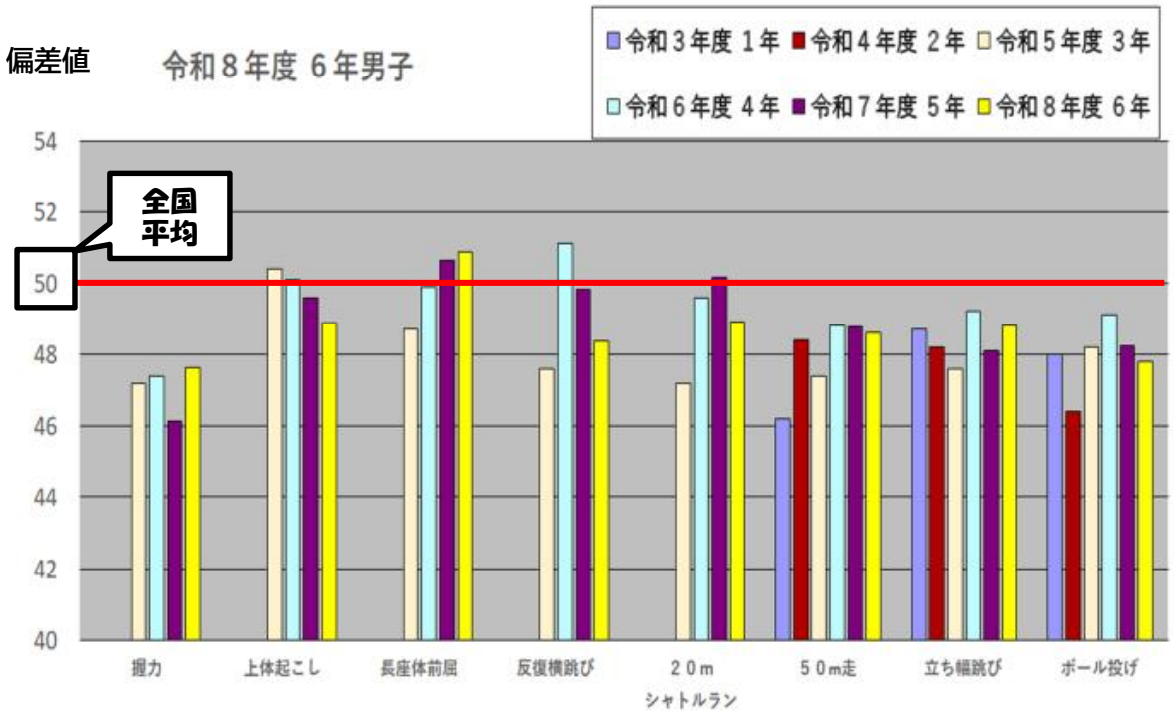


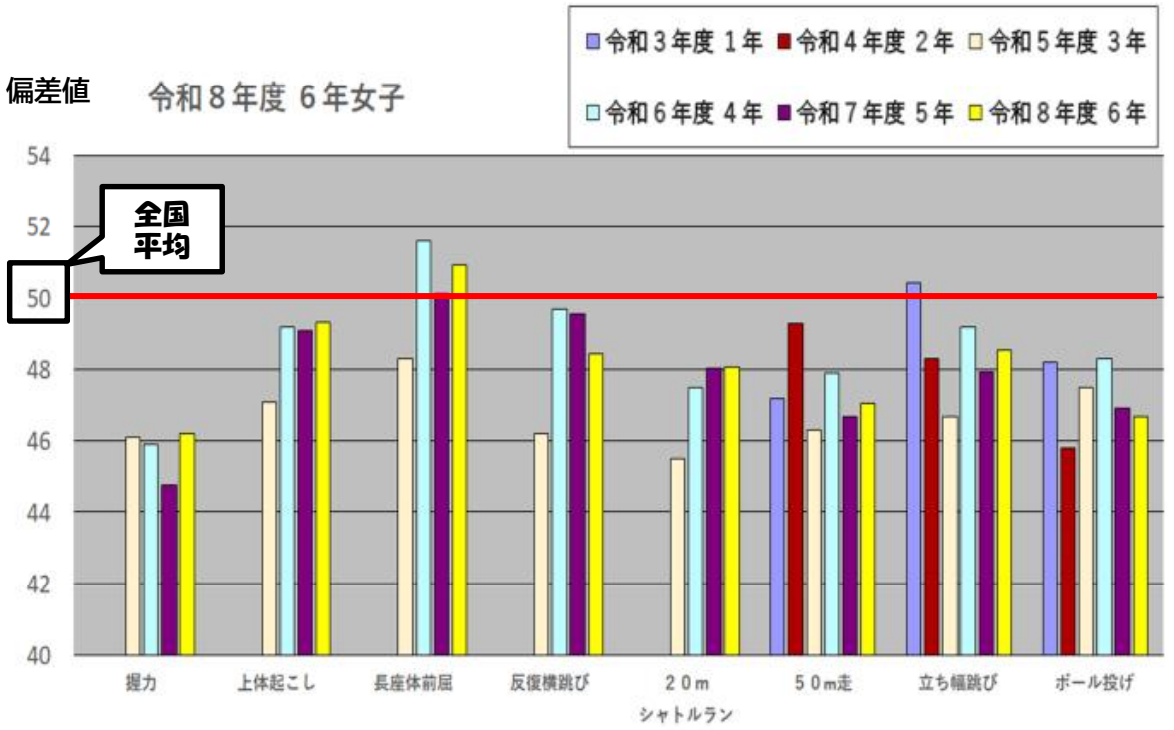


男子は「長座体前屈」「反復横跳び」、女子は「長座体前屈」において全国平均値を上回っています。男子・女子ともに、「握力」「上体起こし」「５０ｍ走」「立ち幅跳び」は、前年度を上回る結果となっています。男子・女子ともに「ボール投げ」が特に低い結果となっていることから、投力の向上を意識した運動に取り組み、改善を図っていきます。

６年生

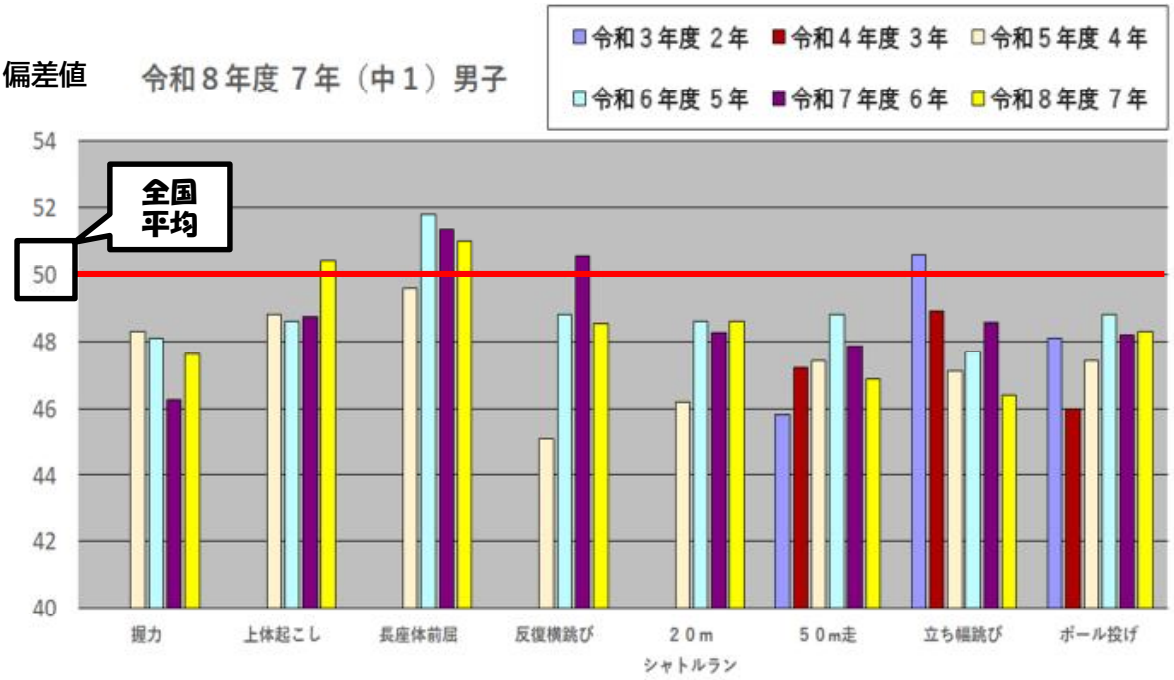
各種目結果の学年別経年比較

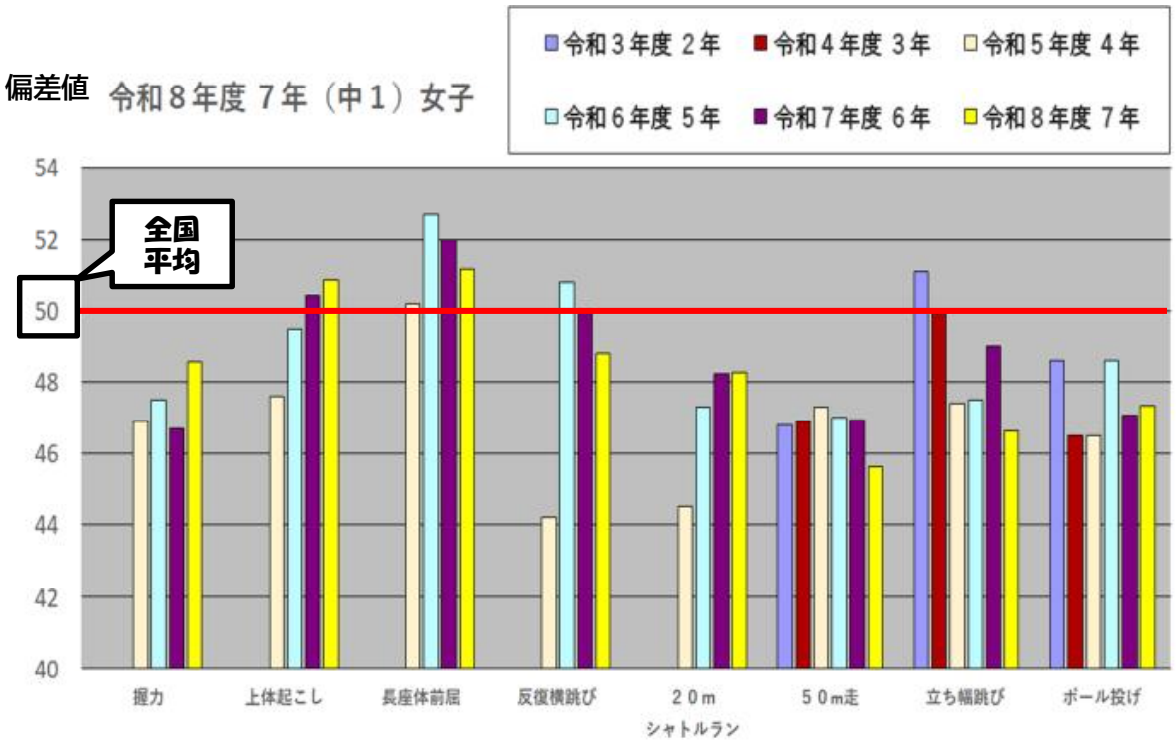




男子・女子ともに「長座体前屈」において全国平均値を上回っています。また、男子・女子ともに「握力」「長座体前屈」「立ち幅跳び」は、前年度を上回る結果となっています。男子・女子ともに「握力」「ボール投げ」の値が低いことから、筋力、投力の向上を意識した運動に取り組み、改善を図っていきます。

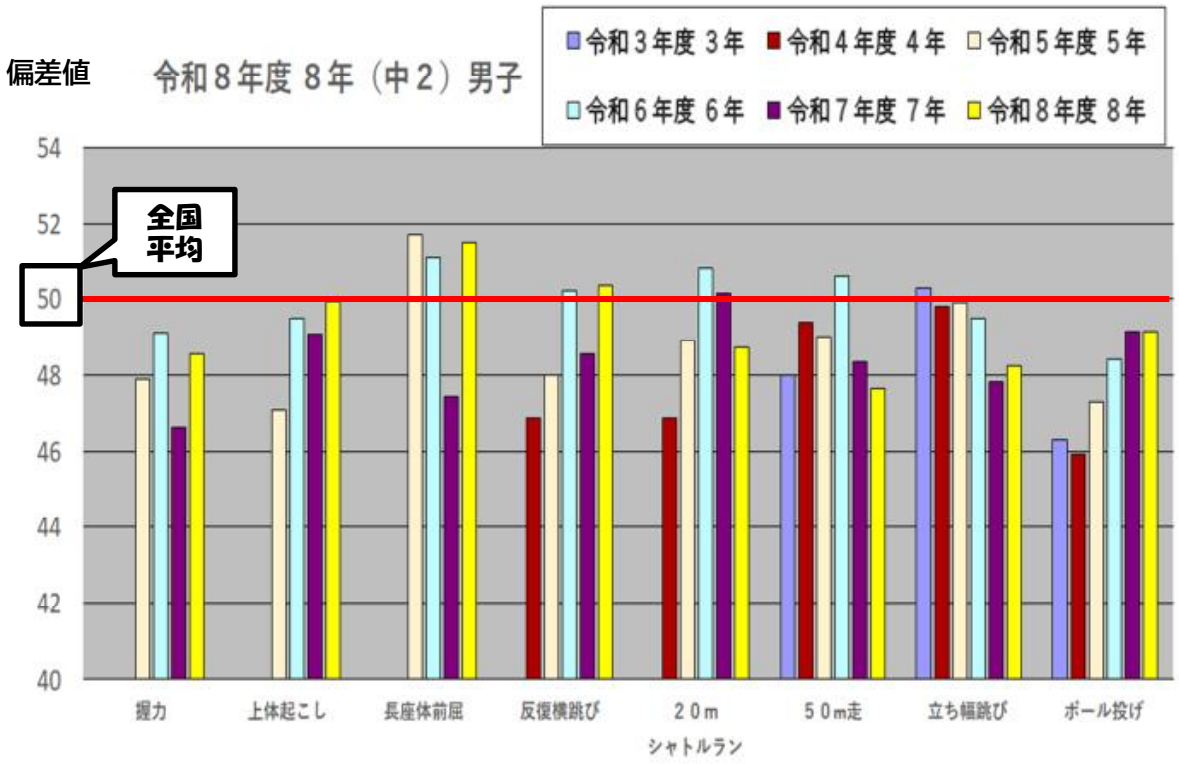
７年生(中１)　各種目結果の学年別経年比較

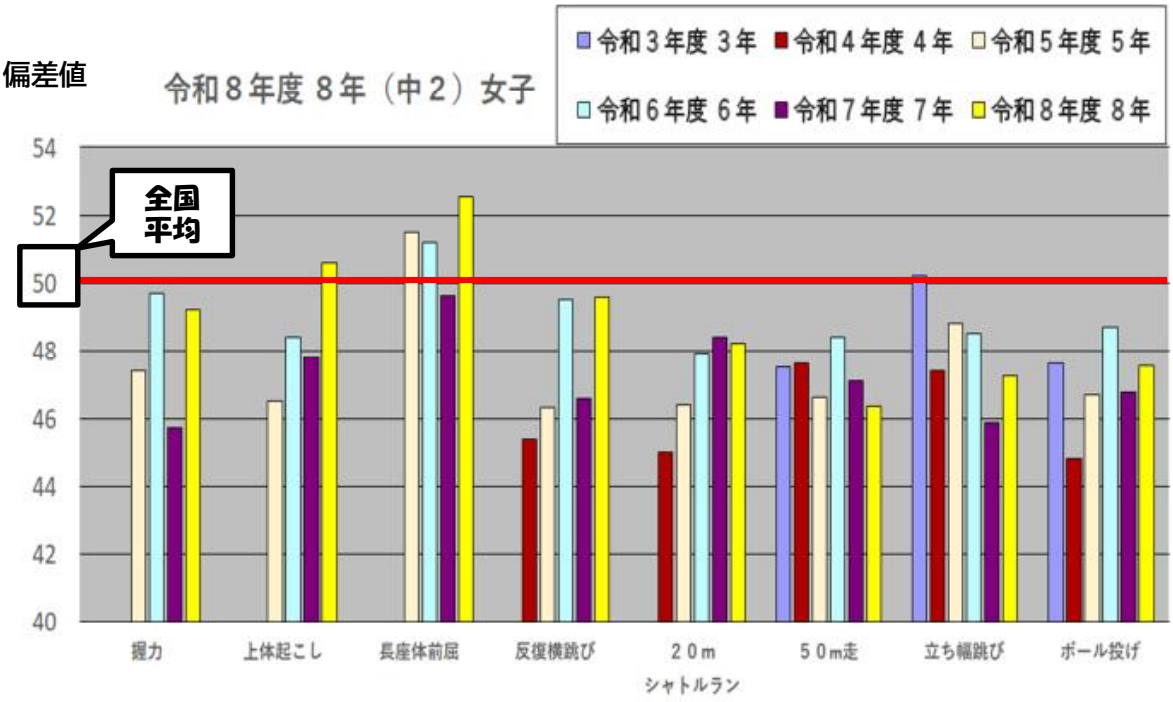




男子・女子ともに「上体起こし」「長座体前屈」において全国平均値を上回っています。また、男子・女子ともに「握力」「上体起こし」「２０mシャトルラン」「ボール投げ」は、前年度を上回る結果となっています。一方で「５０m走」「立ち幅跳び」の値が低いことから、俊敏性や走力、跳躍力の向上を意識した運動に取り組み、改善を図っていきます。

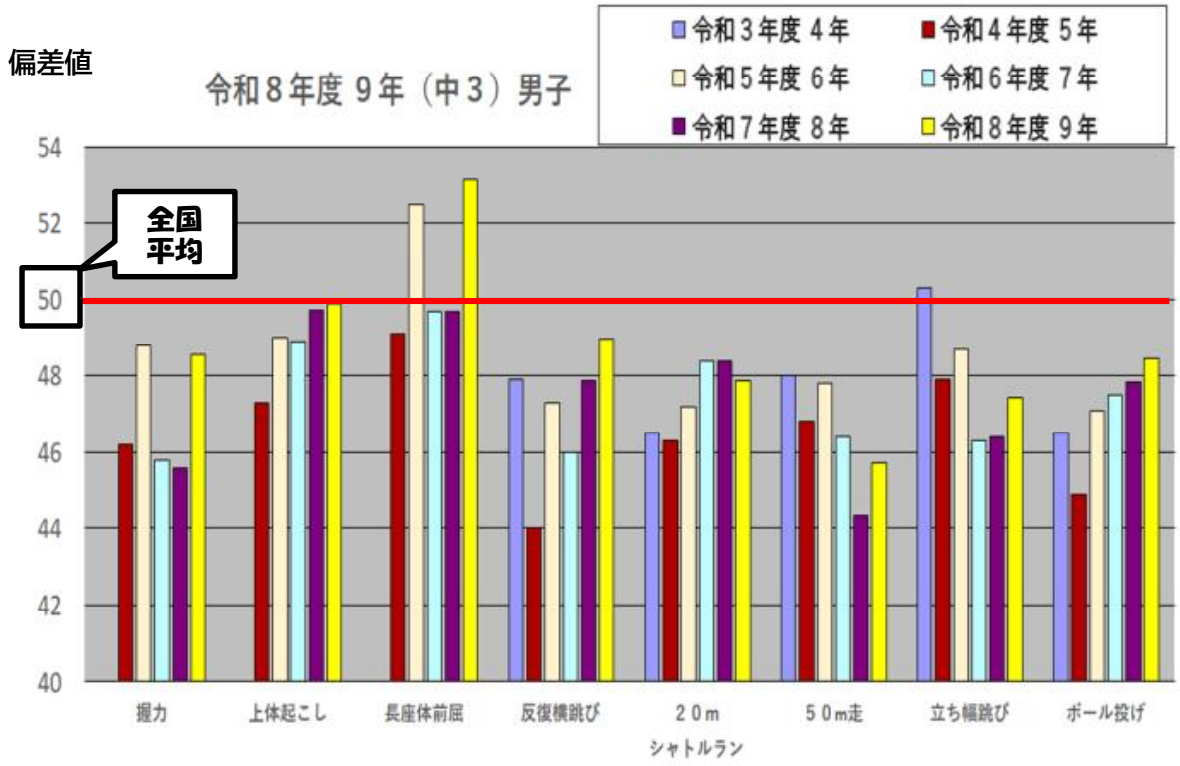
８年生(中２)　各種目結果の学年別経年比較

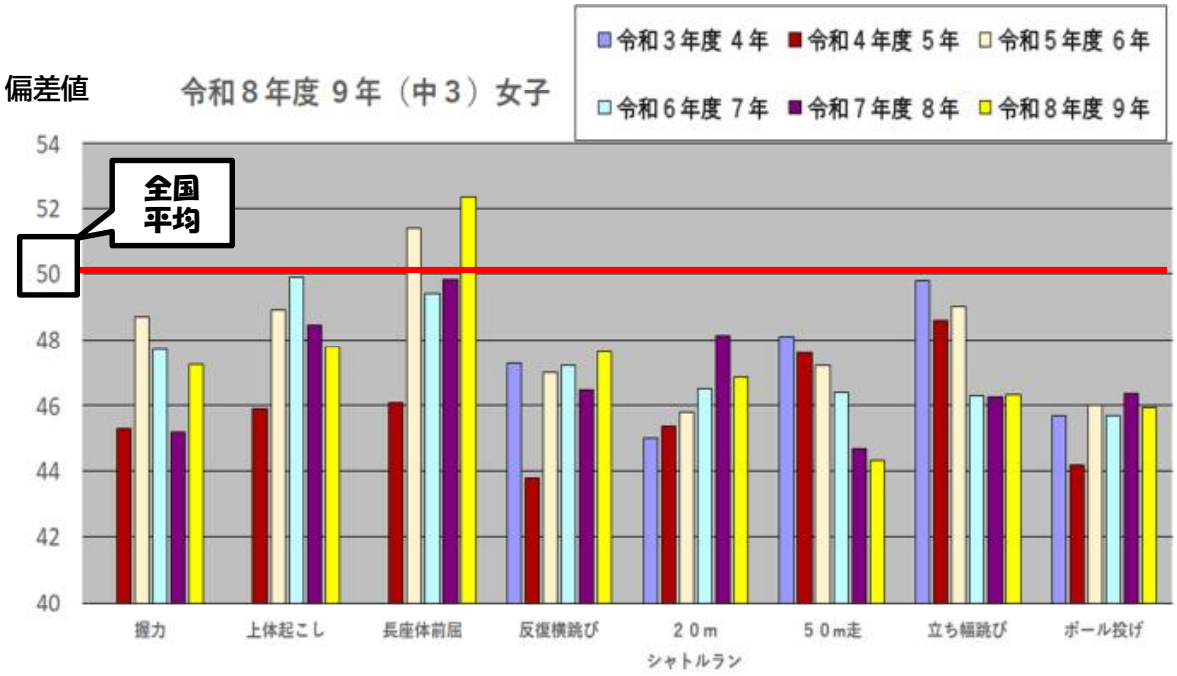




男子は「長座体前屈」「反復横跳び」、女子は「上体起こし」「長座体前屈」において全国平均値を上回っています。男子・女子ともに「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」は、前年度を上回る結果となっています。一方で特に「５０ｍ走」の値が低いことから、スピードや走力の向上を意識した運動に取り組み、改善を図っていきます。

９年生(中３)　各種目結果の学年別経年比較

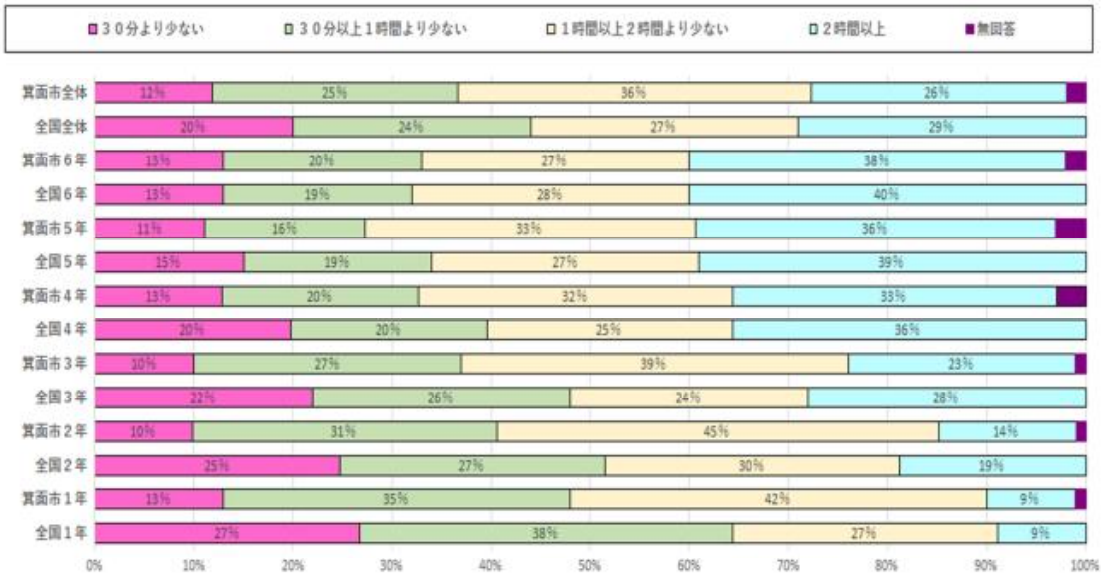




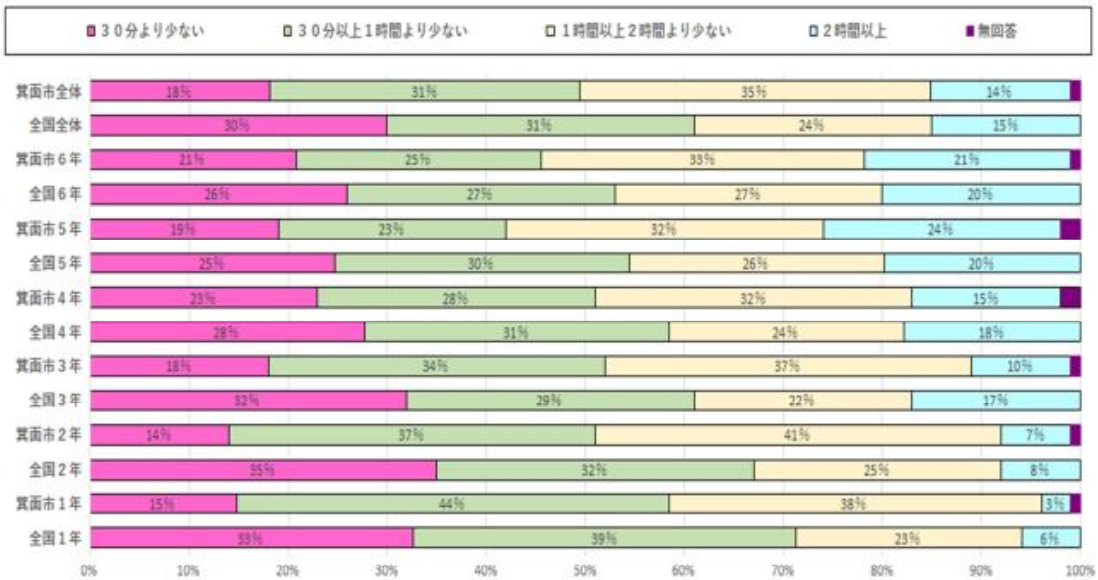
男子は「上体起こし」「長座体前屈」において、全国平均値と同等または上回る結果となっています。女子は「長座体前屈」において、全国平均値を上回っています。また、男子・女子ともに「握力」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」は、前年度を上回る結果となっています。さらに、男子の「ボール投げ」「５０m走」についても前年度を上回り、改善傾向が見られます。

令和８年度　運動習慣等調査の結果から

小学校　１～６年　男子　運動やスポーツをするときには１日どのくらいの時間しますか



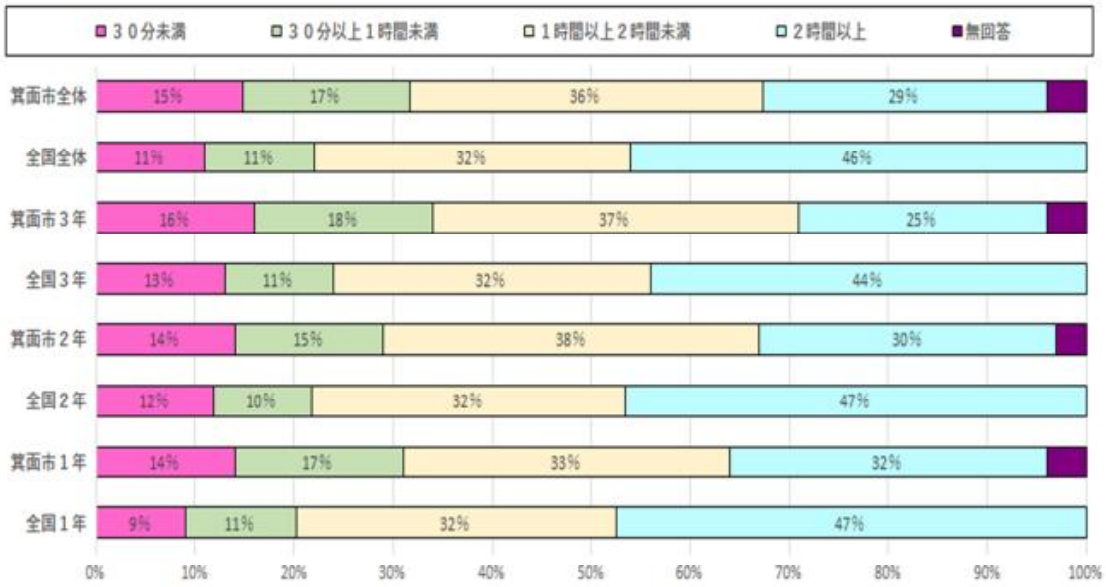
小学校　１～６年　女子　運動やスポーツをするときには１日どのくらいの時間しますか



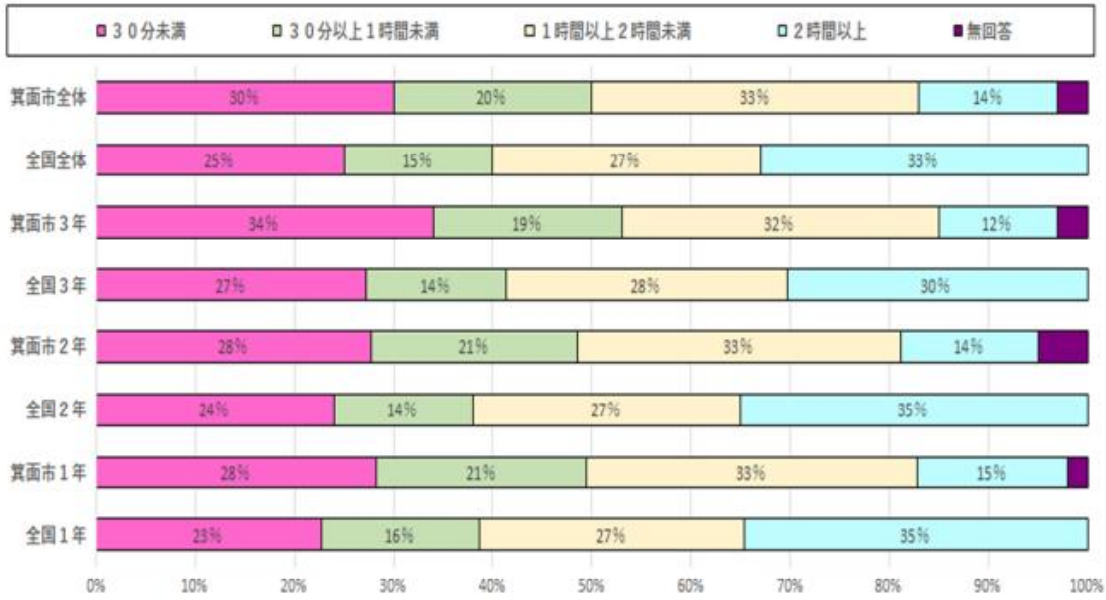
１～６年生では「１日に運動やスポーツをする時間が３０分より少ない」児童の割合は、６年生男子では全国と同等となっているものの、その他の学年では全国を下回っています。

また「運動やスポーツをする時、１日に１時間以上の運動時間がある」児童の割合は、６年生男子を除く、全ての学年で全国を上回っており、本市の児童は全国と比較して運動やスポーツに取り組む時間が長い傾向が見られます。

中学校　1～3年（7～9年）男子　1日の運動・スポーツの実施時間（授業を除く）



中学校　1～3年（7～9年）女子　1日の運動・スポーツの実施時間（授業を除く）



7～9年生では「1日に運動やスポーツをする時間は30分未満である」生徒の割合は、全学年の男子・女子ともに全国に比べて高くなっています。また、男子・女子ともに学年が上がるにつれて「30分未満」の生徒の割合が高くなる傾向があります。

「1日に2時間以上運動やスポーツをする」生徒の割合は、全国を下回っています。本市の7～9年生は、全国と比較して、運動やスポーツに親しむ時間が短い傾向にあります。

令和８年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査まとめ

すすんで運動に親しむ子どもを学校・家庭・地域で育てよう！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均値との比較では、依然として全国平均値を下回る種目が多く見られました。一方で、「長座体前屈」では3年生から9年生までの男女で全国平均値を上回る結果となり、柔軟性に強みが見られました。



「運動習慣や健康意識についての調査」から、次のような傾向が見られました。

➢「1日の運動・スポーツの実施時間が１時間以上」の子どもは体力合計点が高い！

➢「体育の授業で運動のコツやポイントをつかむことができる」子どもは体力合計点が高い！

➢「体育の授業で学んだ運動やスポーツを、大人になってもやってみたい」という意識をもっている子どもは、体力合計点が高い！

■豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる取組

各学校では、体力調査の結果から見える子どもたちの強みや課題を踏まえ、体育の授業改善や運動機会の充実に取り組んでいます。今年度の調査では、柔軟性に強みが見られましたが、「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」については、多くの学年で課題が見られています。

子どもたちが体力を向上させるためには、特別なトレーニングだけではなく、運動やスポーツに親しみながら日常的に体を動かすことが大切です。そのため、体育の授業では、「できた」「わかった」という成功体験を積み重ねながら、一人一人が運動する楽しさや達成感を味わうことができる授業づくりを進めています。また、様々な運動やスポーツに触れる機会を通して、体力や運動能力の向上だけでなく、自ら進んで体を動かそうとする意欲や、仲間と協力して活動する力を育んでいます。



■生涯にわたって運動やスポーツに親しむための取組

ご家庭での散歩や外遊び、地域のスポーツ活動への参加など、日常の中で体を動かす機会を積み重ねることが、子どもたちの体力向上や運動習慣の定着につながります。また、大人が楽しそうに運動やスポーツに親しむ姿は、子どもたちの運動への関心や意欲を高める大きなきっかけとなります。

子どもたちが運動を「好き」「楽しい」と感じることは、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ基盤となります。今後も学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちが主体的に運動やスポーツに取り組み、生涯にわたって健康で豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育んでいきます。